

令和 2 年度
石垣市子ども若者支援に係る
ひきこもり等の実態に関するアンケート調査

集計結果報告

令和 2 年 9 月

石垣市教育委員会
(いきいき学び課 青少年係)

目 次

・石垣市子ども若者支援に係るひきこもり等の実態に関するアンケート実施要領……	1
・石垣市子ども若者支援に係るひきこもり等の実態に関するアンケート調査報告……	2
・全体総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5

資料

・石垣市民の生活等に関する調査【本人・家族】集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・	7
・石垣市民の生活等に関する調査【本人・家族】総括・・・・・・・・・・・・・・・・	21
・石垣市民の生活等に関する調査【それ以外の方】集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・	22
・石垣市民の生活等に関する調査【それ以外の方】総括・・・・・・・・・・・・・・・・	35
・石垣市民の生活等に関する調査（ご意見・ご要望等の自由意見）・・・・・・・・	36

石垣市子ども若者支援に係るひきこもり等の実態に関するアンケート実施要領

1 調査目的

石垣市では平成27年度に本市における社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども若者がどの程度存在し、どのような支援を必要としているか等の実態調査を実施したが、昨今全国的にもひきこもりの高齢化（8050問題）が問題になっていることを踏まえ、ひきこもり者の最新の实態及び当事者のニーズや課題等を把握するため、2回目の実態調査を実施する。前回調査では対象年齢が0歳から39歳までだったところを「大人のひきこもり」の实情把握を目的として、対象を15歳から64歳までとし、それらの親年齢となる35歳から80歳の世帯主を無作為に抽出し、アンケートを行うものとする。

2 調査対象

(1) 対象：石垣市に居住する35歳から80歳が世帯主で、15～64歳の子が属する世帯

(2) 抽出方法 無作為抽出【層化抽出法（比例配分）】 2,000世帯

①対象世帯総数 3,466世帯

②アンケート対象者世帯 2,000世帯

対象人口 4,979人（子どもの数）／対象世帯 3,466世帯

年代	人数	割合	抽出数
15歳～24歳	3,092人	62.1%	1,193
25歳～34歳	950人	19.1%	400
35歳～44歳	557人	11.2%	265
45歳～54歳	311人	6.2%	133
55歳～64歳	69人	1.4%	9
	4,979人	100%	2,000

3 調査方法

郵送配布、郵送回収（発送は料金後納払、回収は料金受取人払の制度を活用）

4 提出先

石垣市青少年センター 〒907-0022 石垣市字大川14番地（市立文化会館1階）

TEL 0980-82-1116

5 調査項目

(1) 基本事項

(2) ひきこもりに関すること

(3) 相談・支援に関すること

6 調査時期

令和2年7月6日 ～ 令和2年7月31日

石垣市子ども若者支援に係るひきこもり等の実態に関するアンケート調査報告

1 調査結果

配布数	2,000 通
不在戻	0 件
回答数	397 通
回収率	19.9%

2 調査の有効性

■配布数と回収率の比較

N	50	100	1,000	2,000	5,000	10,000	20,000	50,000
n	45	80	278	323	357	370	377	382

N=配布対象者数（配布数） n=回答数（回収数）

資料：『人文・社会科学の統計学』

上記表より、アンケート配布総数を 2,000 通として想定すると必要な回収数は、323 通、回収率は 16%となることから、約 2 割程度を回収目標とした。

(1) 最低アンケート配布数の考え方

上記のことから回収率目標を 2 割と設定、必要回収数 323 通の配布数は 1,615 通となる。 $1,615 \times 20\% = 323$ 通であることから、最低 1,615 通の配布を必要とした。

(2) 最大アンケート配布数の考え方

市の総人口は、49,000 人程度であることから、上記「配布数と回収率の比較」表から 382 通の回収によって有効回答が得られる。

配布数を全人口に配布したとしても最低 382 通の回収があれば、有効回答となることから、目標最大回収数を 382 通と設定した。

目標最大回収数 382 通、回収率 2 割とした場合の配布数は、1,910 通となる。

$1,910 \times 20\% = 382$ 通

(3) アンケート配布数

上記(1)と(2)からアンケート配布数は 1,615 通～1,910 通が望ましいと考えられ、最大値 1,910 通の端数を切り上げ 2,000 通とした。

(4) 配布世帯数抽出条件

世帯抽出条件としては本市総世帯数 24,638 (5 月末) の内、35 歳～80 歳の世帯主の総世帯が 12,553 世帯ある。その内 15 歳から 64 歳の子が同居する世帯は 3,466 世帯あり、その中から無作為に 2,000 世帯を抽出した。

3 集計

配布 2,000 世帯

回答数 本人・家族 40 世帯、それ以外 357 世帯 合計 397 世帯 (19.9%)

有効回答世帯における家族人数

*本人・家族 40 世帯 142 人 それ以外 357 世帯 1,250 人 計 397 世帯 1,390 人

ひきこもりの人が居る世帯

*有効回答：本人・家族 29 世帯、それ以外 24 世帯 合計 53 世帯 (13.4%) (無回答除く)

ひきこもり人数

*有効回答：本人・家族 33 人、それ以外 17 名 計 50 名 (無回答除く)

ひきこもり状態調べ

有効回答 (64 人) より無回答 (14 人) を差引いた数 (50 人) を有効回答とする

	該当 人数	回答世帯人口 1,392 人での 割合 (%)	対象総世帯人口 12,131 人に対す る該当人数	生産年齢人口 30,219 人に対す る該当人数	
①自室からほとんど 出ない	2 人	0.1%	12 人	30 人	狭ひきこ もり 計 121 人
②自室から出るが自 宅から出ない	4 人	0.3%	36 人	91 人	
③趣味や用事の時だ け出る	44 人	3.2%	388 人	967 人	広ひきこ もり
計	50 人	3.6%	437 人	1,088 人	
無回答 (分からない、 夜だけ、その他含む)	14 人	1.0%	121 人	302 人	
総合計	64 人	4.6%	558 人	1,390 人	

*年齢回答者 67 人より外出状況調べに無記入の 3 人を除く

上記より①+②の合計が「ひきこもり (狭ひきこもり)」状態の人で、③は「軽度のひきこもり (広ひきこもり)」と判断。それにより、生産年齢人口比率から、ひきこもり状態の人は 121 人、軽度のひきこもりが 967 人、総勢 1,088 人と推定

*注：①～③の回答には、65 歳以上の人も含まれる。年齢別推計人数と誤差は、年齢設問での無回答者数とひきこもり状態設問での無回答者数の誤差によるものである。

年齢別推計 (回答：本人・家族 43 人、それ以外 24 人、計 67 人)

子の年齢	該当数 (人)	有効回答家族人口 1,392 人に占める割合 (A%)	対象総世帯 3,466 世帯 の人口 12,131 人 に対する該当人数 12,131*A%		生産年齢人口 30,219 人に対する 該当人数 30,219*A%	
15～19 歳	5 人	0.4%	49 人	145 人	121 人	362 人
20～24 歳	3 人	0.2%	24 人		60 人	
25～29 歳	4 人	0.3%	36 人		91 人	
30～34 歳	3 人	0.2%	24 人		60 人	
35～39 歳	2 人	0.1%	12 人		30 人	
40～44 歳	3 人	0.2%	24 人	207 人	60 人	513 人
45～49 歳	7 人	0.5%	61 人		151 人	
50～54 歳	2 人	0.1%	12 人		30 人	
55～59 歳	5 人	0.4%	49 人		121 人	
60～64 歳	7 人	0.5%	61 人		151 人	
計①	41 人	2.9%	352 人		876 人	
その他 (65 歳以上)	5 人	0.4%	49 人		121 人	
計②	46 人	3.3%	400 人		997 人	
無回答	21 人	1.5%	182 人		453 人	
総合計	67 人	4.8%	582 人		1,451 人	

※15 歳未満を除く

全体総括（集計結果から見えてきたこと）

今回の調査において、対象 2,000 世帯に対し、総回答が 397 世帯（19.9%）あり回収率における条件は満たしている。

ひきこもり状態にある人の定義としては、外出状況を尋ねた設問（Q19、54）において「自室からほとんど出ない」「自室から出るが自宅から出ない」と答えた人を「狭ひきこもり」、「普段は家にいるが自分の趣味に関する用事の時だけ外出する」「普段は家にいるが近所のコンビニなどには出かける」と答えた人を「広ひきこもり」とした。それによると生産年齢 15 歳～65 歳までの人口に出現率を乗じた割合として、「狭ひきこもり」の人は 121 人、「広ひきこもり」の人は 967 人となり総勢 1,088 人がひきこもり状態にあると推測される。

本市では平成 27 年に 0 歳～39 歳までを対象としたひきこもり実態調査を行っており、その結果と比較してみると、平成 27 年の調査では、「狭ひきこもり」が 173 人に対し今回は 121 人で 52 人減、「広ひきこもり」は、平成 27 年 525 人に対し今回は 967 人で 442 人の増となっている。一見「狭ひきこもり」の人は減少しているように見えるが、平成 27 年の調査では不登校・登校渋りの児童生徒を含むひきこもり状態の人の推計に対し今回の調査では、8050 問題を想定して、35 歳から 80 歳の世帯主で 15 歳から 64 歳の子が同居する世帯と対象をしぼり実施していることから、一概に減とは言えず、「広ひきこもり」の人の増加分からも、本市でひきこもり状態にある人は、平成 27 年時の想定以上であると思慮される。なお、内閣府が実施した同様の調査結果^{注 1}による生産年齢（15 歳から 64 歳）での平均出現率（3.02%）を本市生産年齢人口に乗じた割合では 913 人となる。この事からも、本市では全国平均より多くの方がひきこもり状態にあると想定でき、早急な対応が重要であることがうかがえる。

ひきこもり状態にある人を年齢で比べてみると、39 歳以下より 40 歳以上の方が多い結果となっている。その中には介護を要する人や定年後の生活環境の変化も要因として挙げられるため全てがひきこもり状態の人で有るとは断定できないが、若年のひきこもり以上に親を含む高齢者のひきこもりも多く存在するものと推測される。そのことから、これまでの子ども若者支援事業（0 歳～39 歳まで対象）では対象外となっている 40 歳以上の方へも支援を広げる必要性がみえてくる。

ひきこもりに陥る要因として、若年時のひきこもりは進学や就職などの節目において、その環境に適応できずにその状態になったと思われ、30 代後半以降の方々には中途退職や、病気、家庭環境の変化によりその状態になったと思われる。いずれにしても、精神的負担によりひきこもりに陥る傾向が強く、長期化する傾向もある。

ひきこもりの状態にある人の多くは、「広ひきこもり」で Q16、17、51 の回答結果からも自立意識は高いと思われる。それらの人は、就労自立にむけたスキルアップ、コミュニケーション能力の向上の図れる支援を求めている他、精神的相談を親身・無料・匿

名で求めており、抱える不安では経済状況のほか社会的孤立を訴える人も多い。就労に向けた職場体験等への積極的な声かけや、同じ悩みを持つ当事者や家族の方が集い語れる居場所作り、臨床心理士を伴う訪問支援（アウトリーチ）の拡充、ラインやSNSといったソーシャルネットワークを活用した支援などにより心の負担軽減を図ることで、自立への扉が開ける可能性は大きいと感じる。

8050 問題への理解度においては、当事者・家族に比べ一般での理解度は低い傾向にある。集計結果からも、本市において将来生活困窮者となりえる人が潜在的に多く存在することが想定される為、一般の人へは他人事でなく社会問題であることへの理解を深めてもらう手段として、また当事者・家族にとっては、より身近な問題として捉え今後に備えてもらう為にも、講演会や各種支援制度の説明会などを積極的に開催する必要性を感じる。

学齢期における早期発見、早期対応から、複数の公的支援を受けながらも自立が達成されない子ども若者をはじめとするひきこもり状態の人への社会参加・自立まで責任を持って見届けられる継続した支援体制は必要である。本市では、その担い手として、石垣市子ども・若者支援地域協議会を平成 26 年（2014 年）に設置しそれに加盟している 22 の構成団体の連携により支援体制の強化を図ってきた。しかし、ひきこもり当事者やその家族などは、自身の事を世間に知られたくないとの思いが強く、現在の支援体制だと関係機関に繋ぐ際、より多くの人へ心情や状況の説明を求められることから相談を躊躇する傾向があり、公的機関での支援に対し期待度も低い。それを打開するためにも、教育、福祉、保健と総合的支援が行えるよう、専門的な人材も配置した新たな専門部局の創設や相談窓口の一本化を視野にいたした対応策等について検討すべきであると思われる。

今後の課題として、現在の子ども若者支援地域協議会の調整機関として石垣市青少年センターに設置している「石垣市子ども若者総合相談窓口」の運営には、沖縄振興特別推進交付金を活用・依存している課題がある。同交付金は令和 3 年度で終了予定であり、交付金の交付終了と共に支援を打ち切る事態は避けなければならない。継続を求めるためにも、窓口存続の重要性を説き、一財を含め新たな財源確保にむけた協議の必要性を感じる。

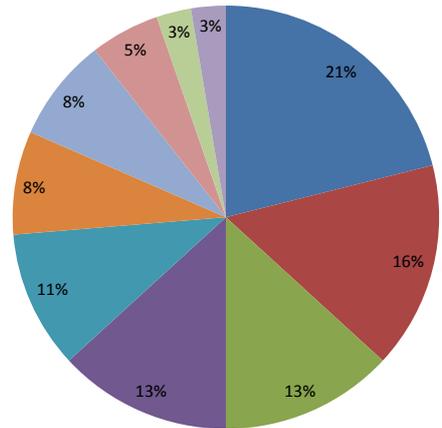
注1 同調査は平成 27 年には 15 歳～39 歳を対象（出現率は 1.57%）とし、平成 30 年には 40 歳～64 歳を対象（出現率は 1.45%）として実施している。今回の調査結果との整合性（生産年齢は 15 歳～64 歳）を図るため、両出現率を足した%（ $1.57+1.45=3.02$ ）を平均出現率として設定した。

石垣市民の生活等に関する調査

【本人・家族】集計結果

Q1. あなたのお住まいの地域はどこですか。

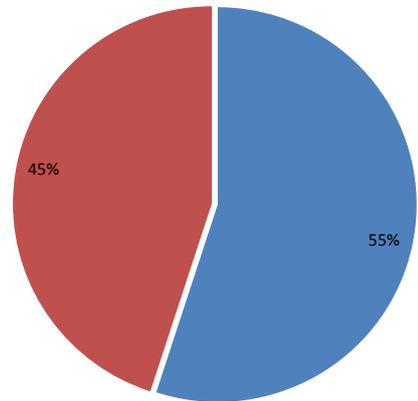
No.	項目	合計 40	
		回答数	割合
1	登野城	8	21%
2	大浜	6	16%
3	石垣	5	13%
4	真栄里	5	13%
5	新栄町	4	11%
6	新川	3	8%
7	大川	3	8%
8	白保	2	5%
9	宮良	1	3%
10	平得	1	3%
11	無回答	2	



* 集計から本人または家族にひきこもりの方が居るのは市街地に集中していることがうかがえる。

Q2. あなたの性別をお答えください。

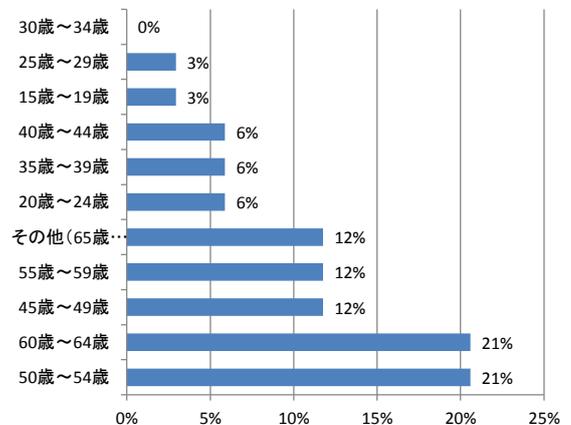
No.	項目	合計 40	
		回答数	割合
1	女性	22	55%
2	男性	18	45%
3	無回答	0	



* 男女ほぼ同数から回答を得られた。

Q3. あなたの年齢をお答えください。

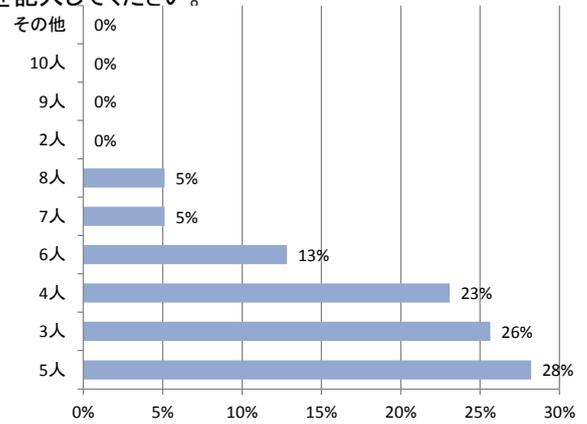
No.	項目	合計 40	
		回答数	割合
1	50歳～54歳	7	21%
2	60歳～64歳	7	21%
3	45歳～49歳	4	12%
4	55歳～59歳	4	12%
5	その他(65歳以上)	4	12%
6	20歳～24歳	2	6%
7	35歳～39歳	2	6%
8	40歳～44歳	2	6%
9	15歳～19歳	1	3%
10	25歳～29歳	1	3%
11	30歳～34歳	0	0%
12	無回答	6	



* アンケート対象年齢(15歳～64歳)から満遍なく回答を得られた。中でも50代以上からの回答が多く、ひきこもり本人より、その親にあたる年代に関心があるとみられる。

Q4. 現在同居している人は合計で何人ですか。あなたも含めた人数を記入してください。

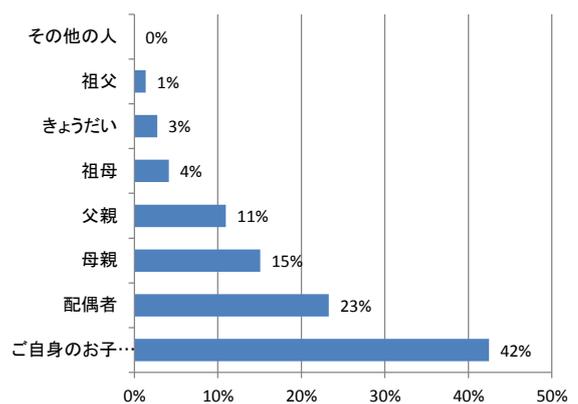
		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	5人	11	28%
2	3人	10	26%
3	4人	9	23%
4	6人	5	13%
5	7人	2	5%
6	8人	2	5%
7	2人	0	0%
8	9人	0	0%
9	10人	0	0%
10	その他	0	0%
11	無回答	1	



* 3人～5人家族が全体の約8割近くを占めている。

Q5. 現在あなたと同居している方をお答えください。(複数回答)

		回答すべき人数 40	
		合計 74	
No.	項目	回答数	割合
1	ご自身のお子さん	31	42%
2	配偶者	17	23%
3	母親	11	15%
4	父親	8	11%
5	祖母	3	4%
6	きょうだい	2	3%
7	祖父	1	1%
8	その他の人	0	0%
9	無回答	1	

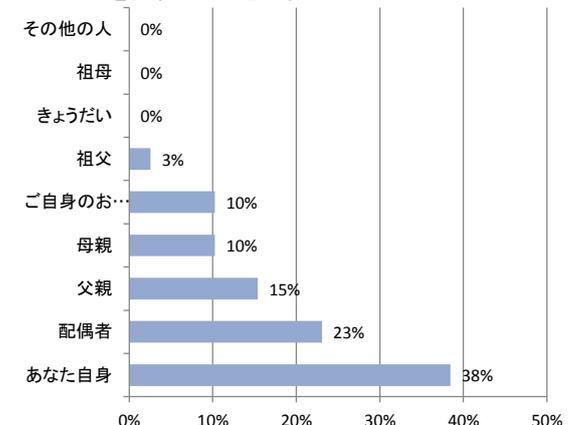


* 配偶者や子どもと同居と答えた割合が全体の65%を占めているが、父親・母親との同居も合計すると19%いる。父親・母親との同居と答えたのは本人と推測されることから、核家族や片親世帯においてひきこもり率が高いように推測される。

Q6. あなたの家の生計を立てているのは主にどなたですか。

生計を立てている方が複数いる場合は、もっとも多く家計を負担している人をお答えください。

		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	あなた自身	15	38%
2	配偶者	9	23%
3	父親	6	15%
4	母親	4	10%
5	ご自身のお子さん	4	10%
6	祖父	1	3%
7	きょうだい	0	0%
8	祖母	0	0%
9	その他の人	0	0%
10	無回答	1	

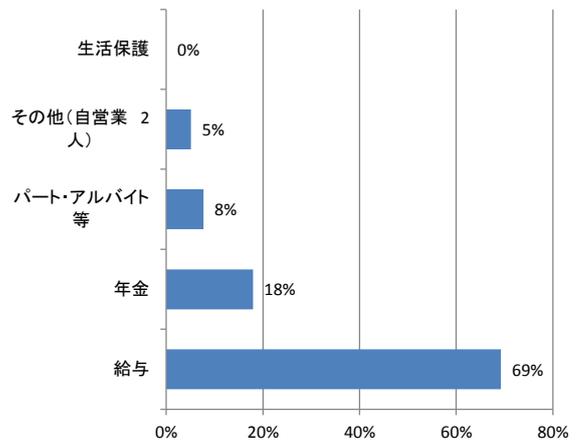


* 記入者とその配偶者で生計を立てている割合が全体の6割で一般的であると推測される。父親、母親の収入による割合は33%ある。記入者が若者で収入が乏しいため同居している場合も想定されるため一概に言えないが、アンケートの趣旨からすると親への依存度はそれなりに高いと思える。8050の観点から見た場合、このままで推移すると、かなりの確立で将来生活困窮者となることが推測される。また、注視すべき点として、子が生計を立てていると答えた割合が10%いることが挙げられる。それから見えることは親が何らかの理由でひきこもり、子が面倒(親の介護も想定される)を見ていることであり、高齢者のひきこもりも潜在的に多いことが推測される。

Q7. Q6で回答いただいた方の主な収入源は何ですか。

No.	項目	合計	
		回答数	割合
			40
1	給与	27	69%
2	年金	7	18%
3	パート・アルバイト等	3	8%
4	その他(自営業 2人)	2	5%
5	生活保護	0	0%
6	無回答	1	

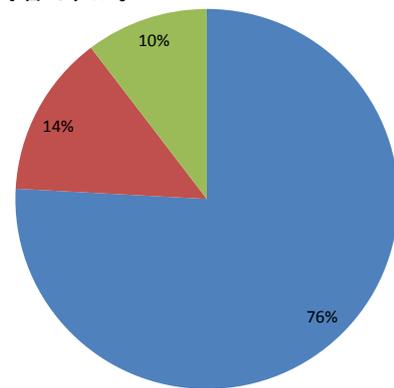
* 収入源は給与、年金で全体の80%をしめている。パート・アルバイト等を主な収入源としている人は8%、生活保護に至っては0%という回答から、ひきこもり状態にある人の多くは生活費に対し特段、困り感は無ないように推測される。



Q8. ご家族のなかで、現在仕事や学校にいかず自宅から出ない状態の方は何名ですか。

No.	項目	合計	
		回答数	割合
			40
1	1人	22	76%
2	2人	4	14%
3	3人	3	10%
4	4人	0	0%
5	5人	0	0%
6	無回答	11	

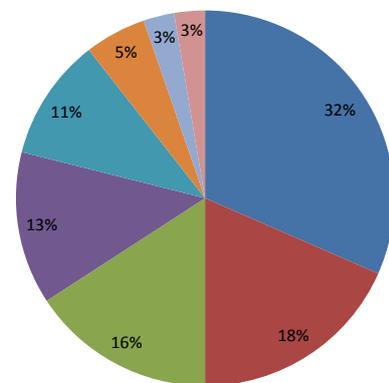
* 1人が22世帯(76%)と最も多いが、2~3人も合計すると7世帯で17名(24%)いることから、家族に1人ひきこもりの人がいると、他の家族(親や兄弟等)もその影響によりひきこもりに陥ってしまうように推測される。



Q9. その方との関係を教えてください。(複数回答)

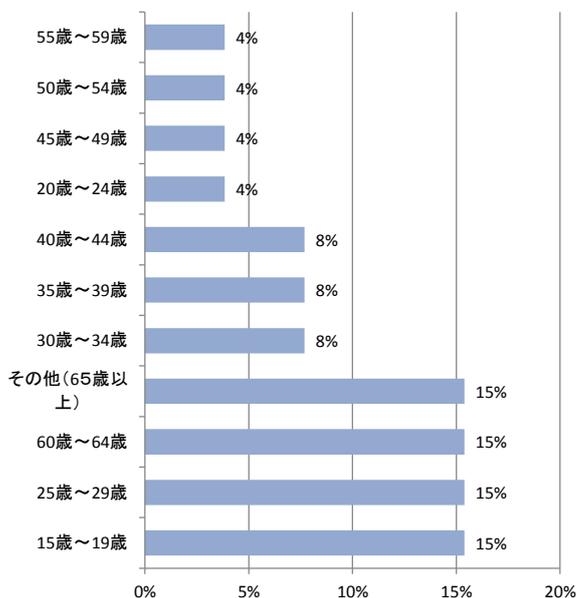
No.	項目	回答すべき人数	合計
		回答数	割合
			40
			50
1	ご自身のお子さん	12	32%
2	母親	7	18%
3	父親	6	16%
4	あなた自身	5	13%
5	配偶者	4	11%
6	きょうだい	2	5%
7	祖母	1	3%
8	その他の人(養子 1人)	1	3%
9	祖父	0	0%
10	無回答	12	

* 子どもが全体の30%を占める結果となっている。父親15%、母親19%、配偶者10%の結果からは、介護も主な要因ではないかと推測される。



Q10. その方の年齢を教えてください。(複数回答)

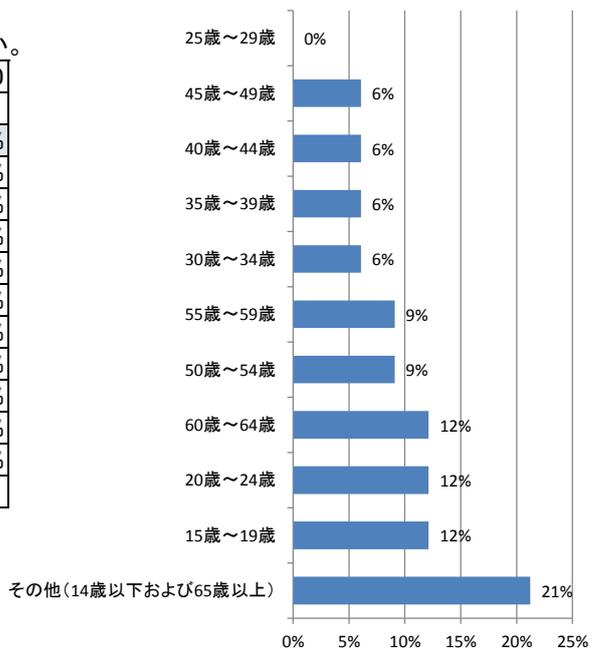
		回答すべき人数	合計
			40
			43
No.	項目	回答数	割合
1	15歳～19歳	4	15%
2	25歳～29歳	4	15%
3	60歳～64歳	4	15%
4	その他(65歳以上)	4	15%
5	30歳～34歳	2	8%
6	35歳～39歳	2	8%
7	40歳～44歳	2	8%
8	20歳～24歳	1	4%
9	45歳～49歳	1	4%
10	50歳～54歳	1	4%
11	55歳～59歳	1	4%
12	無回答	17	



* 年齢で大きなバラつきは見られない。子若支援事業の対象となる39歳までの割合は全体で36%おり、40歳から64歳までは合計で14%いる。注視すべきは35歳から39歳が6%いることで、ひきこもりは長期化する傾向もあることから、今後、このままで推移すると40歳以上でのひきこもり率が上昇する可能性がある。また、その方の年齢層は10代、20代の若年層以上に60歳以上の高齢者も多く、「子ども」のひきこもりと同じく「親」のひきこもりも確実に見られる傾向がある。なおQ8～Q10の設問は基本的に本人以外の家族に対してのものであることから、無回答の人はひきこもり当事者の可能性が高い。

Q11. あなた(その方)が現在の状態になったのは、何歳の頃ですか。

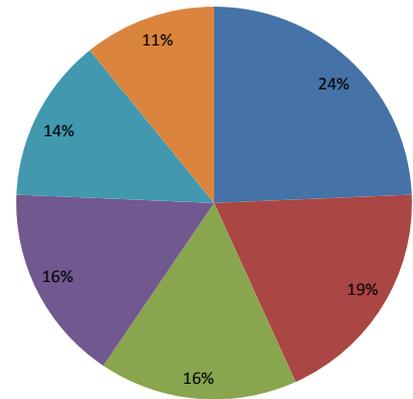
		合計	
		40	
No.	項目	回答数	割合
1	その他(14歳以下および65歳以上)	7	21%
2	15歳～19歳	4	12%
3	20歳～24歳	4	12%
4	60歳～64歳	4	12%
5	50歳～54歳	3	9%
6	55歳～59歳	3	9%
7	30歳～34歳	2	6%
8	35歳～39歳	2	6%
9	40歳～44歳	2	6%
10	45歳～49歳	2	6%
11	25歳～29歳	0	0%
12	無回答	7	



* Q10の回答と並べてみると若年時のひきこもりは進学や就職などの節目でもあり、その環境に適応できずにこの状態になったと思われる。30代以上の方々は中途退職や、病気、家庭環境の変化によりその状態になったと思われる。60歳以上でのひきこもり状態にある人の場合、定年後の生活環境での変化(無趣味等)も影響している可能性もある。

Q12. あなた(その方)が現在の状態となってどのくらい経ちますか。

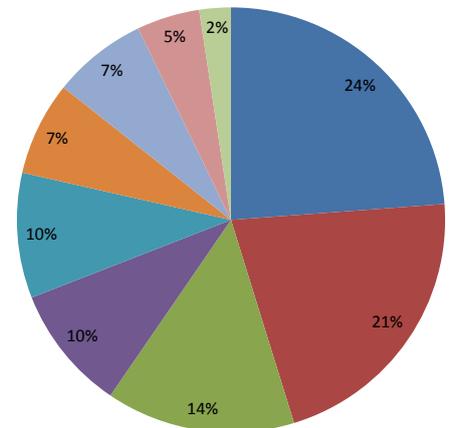
		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	7年以上	9	24%
2	1年～3年	7	19%
3	3年～5年	6	16%
4	5年～7年	6	16%
5	6ヶ月未満	5	14%
6	6ヶ月～1年	4	11%
7	無回答	3	



* 1年未満のひきこもり9名(25%)に対し、1年以上を合計すると28名(75%)となる特に7年以上が9名(24%)居る事からも、一度ひきこりに陥ってしますと長期化する傾向がうかがえる。早期発見、早期相談へと繋げる仕組みづくりが求められている。

Q13. あなた(その方)はこれまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。
通院・入院した事のある病気は何ですか。(複数回答)

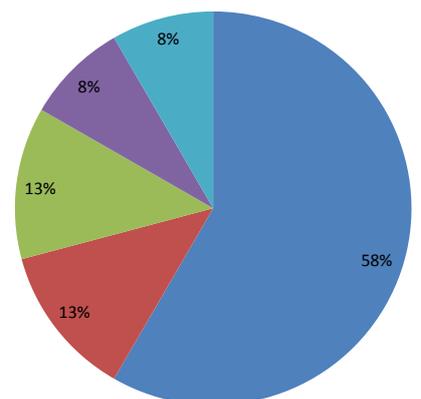
		回答すべき人数 40	
		合計 50	
No.	項目	回答数	割合
1	精神的な病気	10	24%
2	通院や病気をしたことがない	9	21%
3	皮膚の病気	6	14%
4	胃や腸の病気	4	10%
5	骨折・大ケガ	4	10%
6	心臓や血管の病気	3	7%
7	肺の病気	3	7%
8	目・耳の病気	2	5%
9	その他の病気(インフルエンザ1人)	1	2%
10	無回答	8	



* 回答者40名中、通院や病気をしたことがない人が9名(21%)おり、単純にその数を差し引くと31名(79%)の方が何らかの疾病を抱えて居ることになる、健康面での不安もひきこもりの要因となってると思われる。

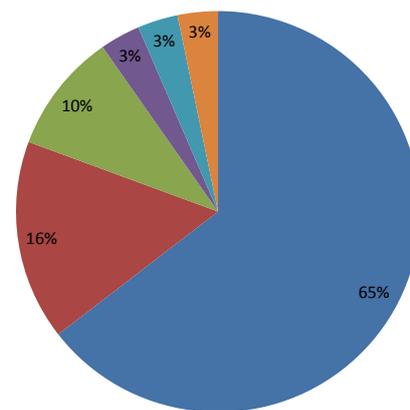
Q14. あなた(その方)は現在学校に通っていますか。

		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	卒業した	14	58%
2	在学中	3	13%
3	中退した	3	13%
4	休学中	2	8%
5	その他(家事1人、退職1人)	2	8%
6	無回答	16	



Q15 あなた(その方)が最後に卒業(中退を含む)した、または現在在学している学校はどれですか。

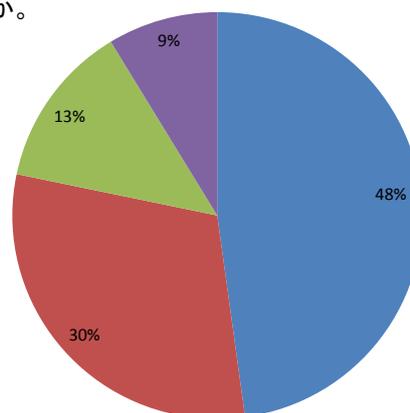
		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	高等学校	20	65%
2	専門学校	5	16%
3	四年制大学	3	10%
4	中学校	1	3%
5	通信制高等学校・大学	1	3%
6	その他(特別支援学校高等部1人)	1	3%
7	定時制高等学校	0	0%
8	高等専門学校・短期大学	0	0%
9	大学院	0	0%
10	無回答	9	



* Q14の回答状況と此処での回答状況から考察すると、高校までは進学を希望するが、それ以上の大学や専門学校への進学は諦めてしまう人が多いように推測される。進路相談も含め小中高と継続した支援体制の構築も考慮する必要がある。

Q16. 現在あなた(その方)は進学(復学を含む)または就職を希望していますか。

		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	就職希望	11	48%
2	どちらも希望していない	7	30%
3	進学(復学)希望	3	13%
4	その他(高齢のため 1人、わからない 1人)	2	9%
5	無回答	17	

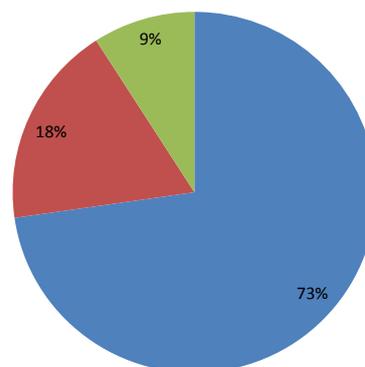


* 就職希望が多く、進学希望は少ないが、他の設問での回答状況からも、約60%は現状を変えたいと思っていると思われる。その反面、どちらも希望していないや無回答を選択した方は30%おり、その方は就職しないでも生活していける環境が整っている長期的なひきこもりの方とも推測される。

Q17. 現在あなた(その方)は就職活動していますか。

		回答すべき人数 11	
		合計 11	
No.	項目	回答数	割合
1	している	8	73%
2	していない	2	18%
3	その他(コロナでできない 1人、高齢のため 1人)	1	9%
4	無回答	0	

Q16で、就職希望を選択した方のみが回答すべき設問

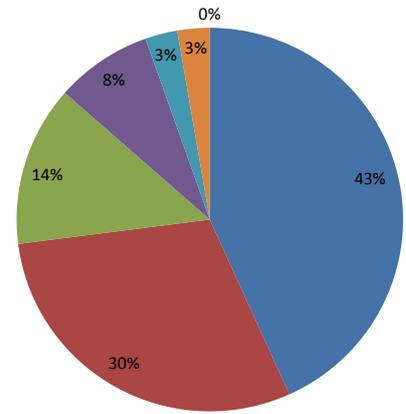


* 「している」と答えた人が8名おり、「していない」人2名よりはるかに多いことから自立に向け努力している人が多いと思われる。

Q18. あなた(その方)は今まで働いたことがありますか。

		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	パート・アルバイトとして働いていた	16	43%
2	正社員として働いていた	11	30%
3	自営業を営んでいた	5	14%
4	働いたことはない	3	8%
5	契約社員として働いていた	1	3%
6	その他(アルバイトとして働いている 1人)	1	3%
7	派遣社員として働いていた	0	0%
8	無回答	3	

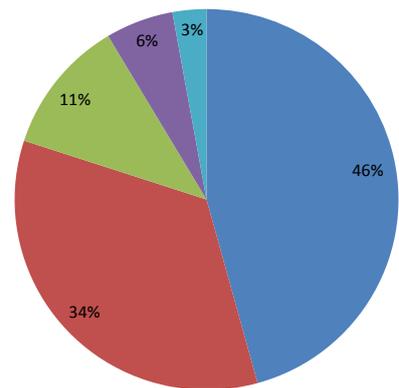
* 約9割は働いた経験があることが分かる。責任面での負担軽減や時間的制約の緩やかな職場からの就労支援が効果的であるように思える。



Q19. あなた(その方)は普段どのくらい外出しますか。

		合計 40	
No.	項目	回答数	割合
1	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する	16	46%
2	普段は家にいるが近所のコンビニなどには出かける	12	34%
3	自室からは出るが、家からは出ない	4	11%
4	その他(夜だけ出る 1人、老人活動で外出する 1人)	2	6%
5	自室からほとんど出ない	1	3%
6	わからない	0	0%
7	無回答	5	

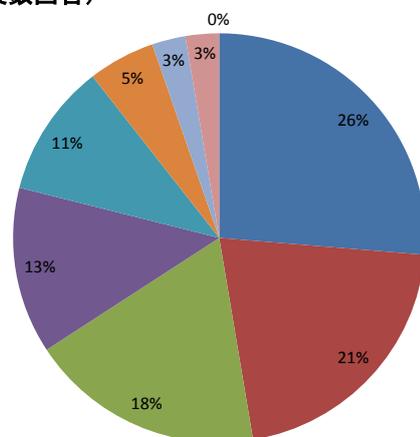
* 自宅から殆ど出ない人と比べ、趣味や買い物の用事で外出できる人が多い。この事はひきこもり支援で最も困難な外出困難という課題が軽度の方と思われ、積極的な声かけ支援により外出を促せれば、自立への扉が開ける可能性は大きいと感じる。



Q20. あなた(その方)が今の状態になったきっかけは何だと思いますか。(複数回答)

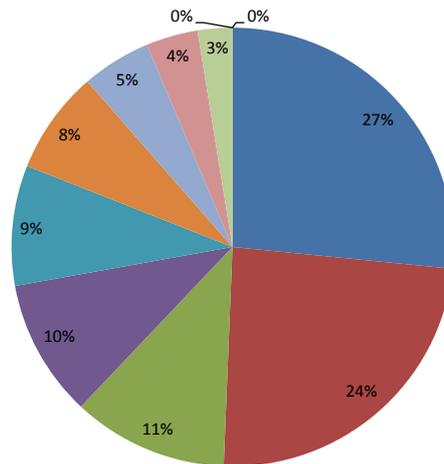
		回答すべき人数	40
		合計	50
No.	項目	回答数	割合
1	病気	10	26%
2	人間関係がうまくいかなかった[友人・父・母・兄弟 その他]	8	21%
3	職場になじめなかった	7	18%
4	不登校(小学校・中学校・高校)	5	13%
5	その他(母との死別1人、子育て1人、定年退職1人、コロナ)	4	11%
6	大学・専門学校になじめなかった	2	5%
7	受験に失敗した(高校・大学)	1	3%
8	就職活動がうまくいかなかった	1	3%
9	妊娠した	0	0%
10	無回答	12	

* 病気や人間関係がやはり上位を占めるが、不登校からのひきこもりも潜在的に多いと思われる。不登校や登校渋りへの対策強化に向けた取り組みの必要性を感じる。また、人間関係については、コミュニケーション能力の向上が課題として挙げられる。就職や職場でのつまづきから社会的孤立に陥り、相談支援の機会を逃していることも推測される。



Q21. あなた(その方)は小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。(複数回答)

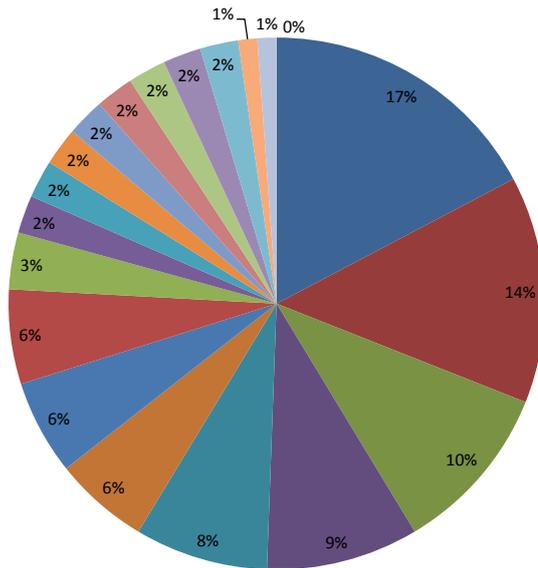
		回答すべき人数	40
		合計	88
No.	項目	回答数	割合
1	友達とよく話した	21	27%
2	親友がいた	19	24%
3	不登校を経験した	9	11%
4	友達にいじめられた	8	10%
5	我慢をすることが多かった	7	9%
6	学校の先生との関係がうまくいかなかった	6	8%
7	学校の勉強についていけなかった	4	5%
8	友達というよりも一人で遊んでいる方が楽しかった	3	4%
9	友達をいじめた	2	3%
10	いじめを見て見ぬふりをした	0	0%
11	その他	0	0%
12	無回答	9	



* Q20と関連して見ても疾病や対人関係のもつれからひきこもりに陥る傾向が伺える特に「友達とよく話した」「親友がいた」を合わせると51%いるにも関わらずひきこもりに陥る要因としては、メンタル面に繊細さを持つ対象者が友人の何気ない言動により、精神的苦痛を抱え込んでしまったことが推測される。そのことから、これまでの支援者のスキルアップを目的として開催してきた各種セミナー等をこれまでと異なった視点により開催すると共に保護者などの参加も促し、その傷を癒せる術を身に付けてもらえるよう努力することが大切だと思われる。

Q22. あなた(その方)は小学校や中学校の頃に、**家庭**で次のようなことを経験したことがありますか。(複数回答)

		回答すべき人数	40
		合計	95
	項目	回答数	割合
1	親とは何でも話すことができた	15	17%
2	困ったときは、親が親身に助言をしてくれた	12	14%
3	我慢をすることが多かった	9	10%
4	経済的に苦しい生活を送った	8	9%
5	親はしつけが厳しかった	7	8%
6	何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった	5	6%
7	小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた	5	6%
8	両親が離婚した	5	6%
9	親と死別した	3	3%
10	将来の職業など親に決められた	2	2%
11	家族に相談しても、あまり役に立たなかった	2	2%
12	親は学校の成績を重視していた	2	2%
13	親と自分との関係がよくなかった	2	2%
14	両親の関係がよくなかった	2	2%
15	引っ越しや転校をした	2	2%
16	大きな病気をした	2	2%
17	親が過保護(過干渉)であった	2	2%
18	親から虐待をうけた	1	1%
19	あてはまるものはない	1	1%
20	その他	0	0%
21	無回答	8	

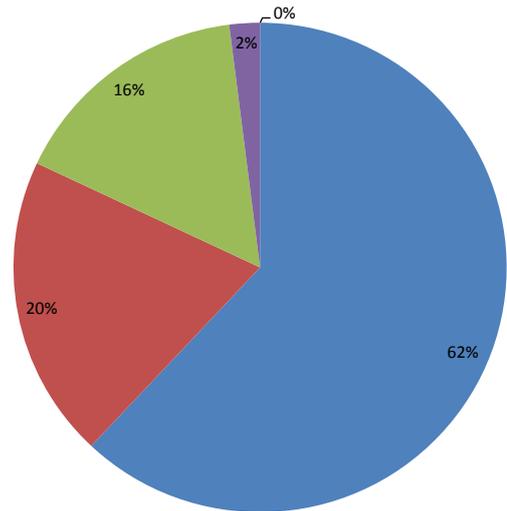


* 親との関係は良好と思われるが、その反動か、離婚や我慢の状況からも、悩みや不安を抱え込む人ほどひきこもりに陥りやすいように推測される。

Q23. あなた(その方)が以下に挙げられた通信手段の中で、普段利用しているものすべてをお答えください。(複数回答)

		回答すべき人数	40
		合計	54
No.	項目	回答数	割合
1	携帯電話(スマートフォン)	31	62%
2	固定電話	10	20%
3	パソコン	8	16%
4	その他(公衆電話1人)	1	2%
5	ファックス	0	0%
6	無回答	4	

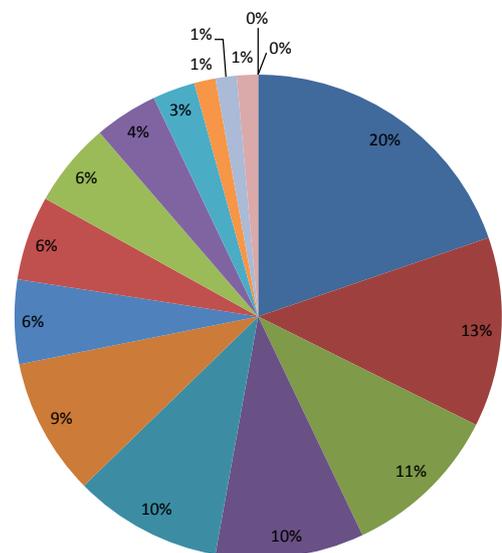
* 通信手段としては、携帯やパソコンが殆どだと推測される。固定電話と答えた方の多くは高齢者と推測される。若年層に対してSNS等を相談ツールとして活用できれば相談しやすい環境の構築に繋がると思われる。



Q24. あなた(その方)が普段ご自宅にいる時よくしていることすべてをお答えください。(複数回答)

		回答すべき人数	40
		合計	143
No.	項目	回答数	割合
1	テレビを見る	28	20%
2	新聞を読む	18	13%
3	インターネット	15	11%
4	本を読む	14	10%
5	ゲームをする	14	10%
6	家事・育児をする	13	9%
7	ラジオを聴く	8	6%
8	LINE(ライン)	8	6%
9	SNS(インスタグラム、フェイスブック、ツイッター等)	8	6%
10	勉強をする	6	4%
11	オンライン・ゲーム	4	3%
12	電子メール	2	1%
13	チャットまたはメッセージ	2	1%
14	その他(絵を描く 2人)	2	1%
15	電子掲示板の閲覧・書き込み	0	0%
16	ウェブサイトまたはウェブブログ	0	0%
17	無回答	1	

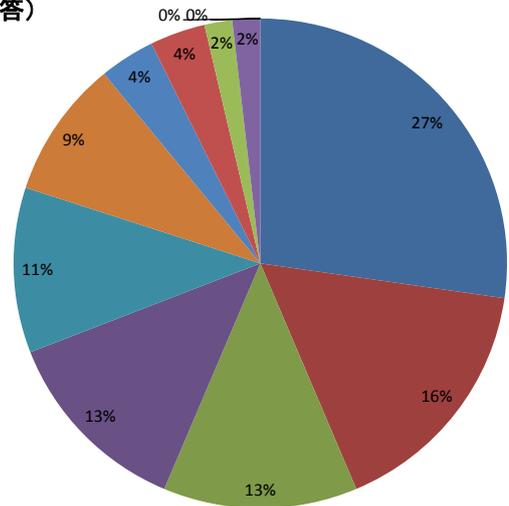
* 回答状況から推測すると、若年層は携帯やパソコン、年齢が上がるほど、本や新聞、テレビなどが増えているように推測される。家事・育児と答えた人はひきこもり当事者でなく主婦の方をはじめとする家族の方の回答と思われる。



Q25.あなた(その方)は普段悩み事を誰かに相談していますか。(複数回答)

回答すべき人数 40
合計 60

No.	項目	回答数	割合
1	親	15	27%
2	友人・知人	9	16%
3	配偶者	7	13%
4	誰にも相談しない	7	13%
5	兄弟	6	11%
6	カウンセラー・精神科医	5	9%
7	都道府県、市町村などの専門機関	2	4%
8	ネット上の知り合い	2	4%
9	職場の同僚・上司	1	2%
10	その他(娘 1人)	1	2%
11	祖父母	0	0%
12	学校の先生	0	0%
13	無回答	5	

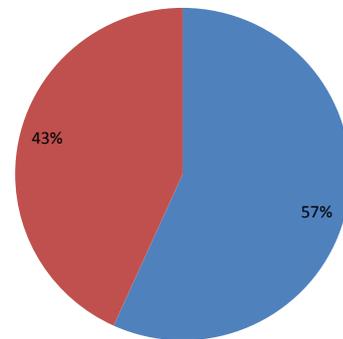


* 相談相手の殆どが身内であり外部の人への相談は少ない。ただ、カウンセラーへの相談は外部への相談としては、割合的に多いので専門家へ相談したいという傾向はうかがえる。学校の先生への相談が0件ということは、学校への不信任や先生自身が専門外だからとの認識によるものと推測される。

Q26 あなた(その方)のことについて関係機関に相談したことがありますか。

合計 40

No.	項目	回答数	割合
1	ない(わからない)	21	57%
2	ある	16	43%
3	無回答	3	

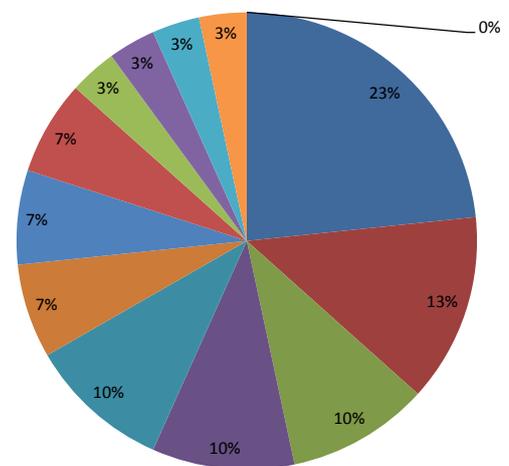


* 周囲への体裁を気にしてか「ない」と答えた人が多い。相談窓口や支援機関等の告知方法も含め、相談しやすい環境作りについてさらに検討すべきと思慮される。

Q27 あなた(その方)はどのような関係機関に相談しましたか。相談したことのある機関をお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 16 ※Q26で「ある」を選択した方のみが回答すべき設問
合計 30

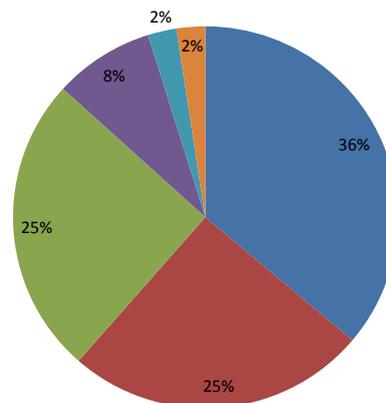
No.	項目	回答数	割合
1	病院・診療所	7	23%
2	教育相談所・相談室などの相談機関	4	13%
3	職業安定所(ハローワーク)	3	10%
4	精神保健福祉センター	3	10%
5	ジョブカフェ地域若者サポートステーションなどの就労支援機関	3	10%
6	市町村役場	2	7%
7	適応指導教室	2	7%
8	その他の施設・機関	2	7%
9	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	1	3%
10	保健所・保健センター	1	3%
11	発達障害者支援センター	1	3%
12	民間施設	1	3%
13	上記以外の心理相談・カウンセリングを行う民間の機関	0	0%
14	無回答	0	



* 病院・診療所が最も多いが、各種相談機関への相談も一定数いる。Q25と関連して、臨床心理士等専門知識を有した人材を可能な限り多くの場所に配置できれば、より相談しやすい環境構築に結びつくと思われる。

Q28次に挙げられたことは、あなたの家族にどのくらいあてはまりますか。(複数回答)

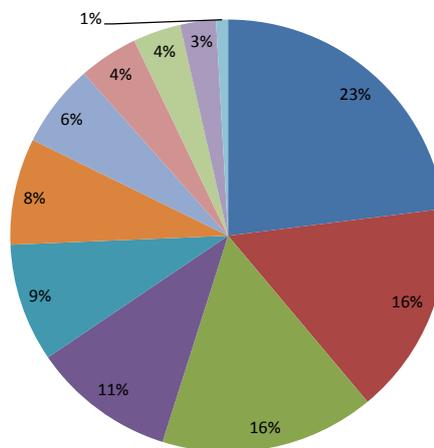
		回答すべき人数	
		回答数	割合
		合計	84
No.	項目	回答数	割合
1	家族とはよく会話をしている	30	36%
2	家族と一緒に外出する	21	25%
3	家族そろって食事をするほうだと思う	21	25%
4	家族とは会話がないほうだ	7	8%
5	家族はあまり仲が良くないほうだ	2	2%
6	その他	2	2%
7	無回答	1	



* 家族との会話や食事、外出を共有できている傾向にある事からも、支援を行う際には家族からの情報提供や協力が不可欠であることがうかがえる。ただ、家族が支援機関へ依存することの無いよう、支援におけるガイドライン等を作成し支援に当たる事も検討すべきと思われる。注意すべきは、「家族と会話がない」や「家族と仲が良くない」場合で、無理に関われば、支援が難航するケースになりやすいためより慎重な対応が求められる。

Q29. 現在、抱えている不安や危機感として、どのようなものがありますか。(家族の方は本人に対して記入)(複数回答)

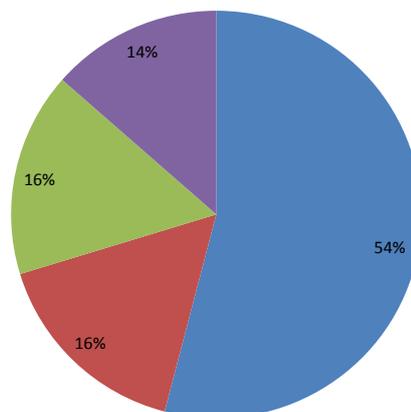
		回答すべき人数	
		回答数	割合
		合計	115
No.	項目	回答数	割合
1	収入や生活費など経済的なこと	26	23%
2	健康状態	18	16%
3	就職や仕事のこと	18	16%
4	親の高齢化	12	11%
5	家事や身の周りのこと	10	9%
6	家族の介護	9	8%
7	家族との関係	7	6%
8	学業や学校のこと	5	4%
9	友人や仲間との関係	4	4%
10	結婚や恋愛問題	3	3%
11	その他	1	1%
12	無回答	2	



* 仕事や収入は生活費など経済的な事と関連しており、その点に不安を感じている人が39%、健康面、親の高齢化、介護も合わせると39%になり、それらを合計すると78%で約8割となることから、就労機関や福祉関連機関との連携が今後より求められると思慮される。

Q30. 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか。

		合計	
		回答数	割合
		合計	40
No.	項目	回答数	割合
1	思わない	20	54%
2	思う	6	16%
3	少し思う	6	16%
4	非常に思う	5	14%
5	無回答	3	

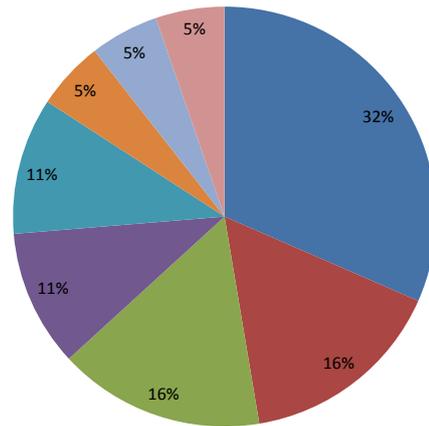


* 全体の54%もの人が相談したくないと思っている状況から、現在支援できている人は、ひきこもりに陥っている人の一部に過ぎず、潜在的にかなりの人がひきこもり状態にあると思われる。それらの人をどう支援に結び付けるかが今後の課題と言える。これまでの訪問型支援では、主に支援員のみで行い、専門知識を有する人同伴で行うことは少なかったが、今後は同伴回数を増やすことも解決策の一つとして検討に値すると思われる。

Q31 相談したくないと思う理由はなんですか。(複数回答)

回答すべき人数 20 ※Q30で「思わない」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 25

No.	項目	回答数	割合
1	行っても解決できないと思う	6	32%
2	自分(その方)のことを知られたくない	3	16%
3	その他(自分で解決できる1人、必要性がない1人、話すことがない1人)	3	16%
4	相談に行ったことを人に知られたくない	2	11%
5	相手にうまく話せないと思う	2	11%
6	何か聞かれるか不安に思う	1	5%
7	相談機関が自宅から遠い	1	5%
8	お金がかかると思う	1	5%
9	無回答	6	

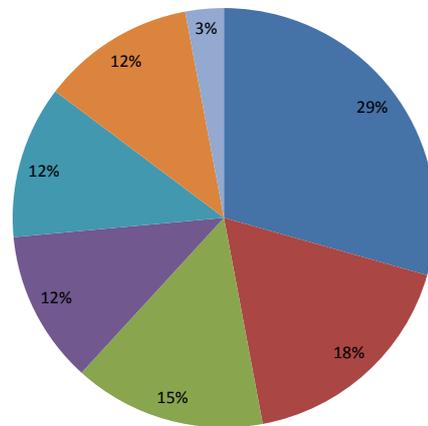


* 家族・当事者含め、6割以上の方が知られたくないし、行っても解決できないと感じている。相談したいと思えるように、匿名性確保の上、自立に成功した人の感想などを広く周知する事も必要である。

Q32. どのような場所なら、相談したいと思えますか。(複数回答)

回答すべき人数 17 ※Q30で「非常に思う」、「思う」、「少し思う」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 36

No.	項目	回答数	割合
1	サポートステーション(就労に向けたスキルアップなど)	10	29%
2	同じ悩みを持つ人が集まる場所(ピアサポート)	6	18%
3	臨床心理士が常駐している相談機関	5	15%
4	子ども・若者相談窓口	4	12%
5	精神科医がいる病院	4	12%
6	その他(相談したいが外に出たくない、就職紹介できる所等)	4	12%
7	保健所	1	3%
8	無回答	2	

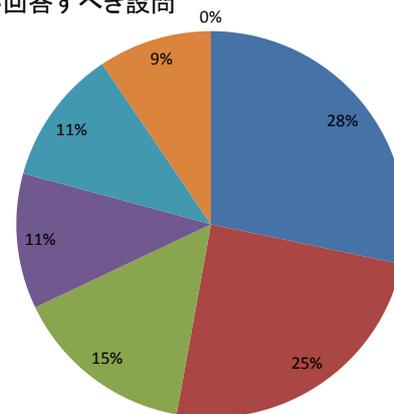


* 回答結果から、「就労」や「悩みの共有」への意識の高さがうかがえる。それは自立したいとの思いの表れとも取れることから、職場体験や同じ悩みを持つ当事者や家族の方が集り語れる居場所作りを推進することが、心の負担軽減に繋がると思われる。

Q33. 相談場所に求める条件は何ですか。(複数回答)

回答すべき人数 17 ※Q30で「非常に思う」、「思う」、「少し思う」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 54

No.	項目	回答数	割合
1	親身に聴いてくれる	15	28%
2	無料で相談できる	13	25%
3	匿名で相談できる	8	15%
4	ネットで相談できる	6	11%
5	LINE等を使って相談をしてくれる	6	11%
6	出張相談をしてくれる	5	9%
7	その他	0	0%
8	無回答	1	

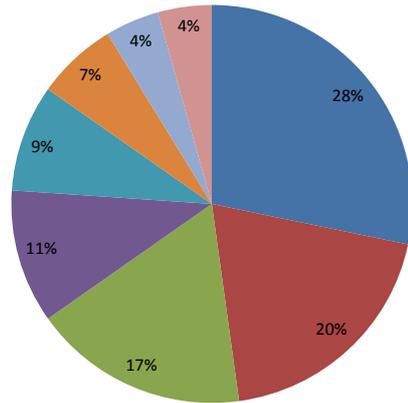


* 要望の多い親身・無料の条件を叶えるには公的機関でなければならない。今回のアンケート調査は、子若支援事業対象年齢を超えた年齢層も対象としていることから幅広い年齢で要求されていると推測される。そのためにも現行の支援事業対象年齢の拡充が必要と思われる。

Q34. あなた(その方)を支援するために本市に必要なと思う機関をお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 17 ※Q30で「非常に思う」、「思う」、「少し思う」を選択した
 合計 51 方のみが回答すべき設問

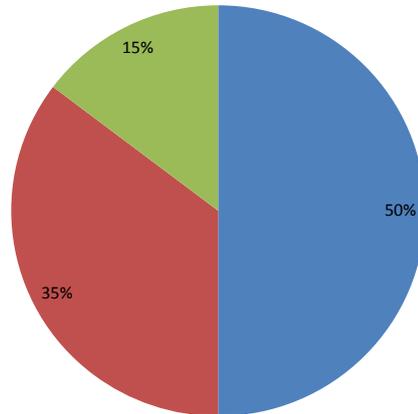
No.	項目	回答数	割合
1	職業訓練校(専門的職種の資格取得など)	13	28%
2	精神保健福祉センター(心の病について相談、支援を行うなど)	9	20%
3	発達障害者支援センター、療育センター	8	17%
4	自立支援学校(共同生活をしながら自立に向けた生活訓練など)	5	11%
5	自立支援センター(ホームレスとなるおそれのある方を一時的に保護し、社会復帰に向けた支援)	4	9%
6	支援者家族が集う会	3	7%
7	フリースクール	2	4%
8	その他(どちらともいえない1人、障害者支援1人)	2	4%
9	無回答	5	



* 職業訓練校が多い。義務教育後でも資格取得や社会人マナーなど当事者に自信をつける必要があると思っている人が多数いると思われるが、職業訓練校の誘致、開校について、現状、早急な対応は困難であるため、様々な職種で職場体験ができるよう、広く民間企業に協力を求める必要性を感じる。発達障害者支援センターや精神保健福祉センターなどの割合が高いことは、早い段階からメンタルケアへの関心があると思われ、医療、福祉関係においては専門知識を有する人材確保が急務と思慮される。

Q35. あなたは「8050問題」について知っていましたか。

No.	項目	回答数	割合
		合計	40
1	知っていた	17	50%
2	聞いたことはあるが詳しくは知らなかった	12	35%
3	知らなかった	5	15%
4	無回答	6	

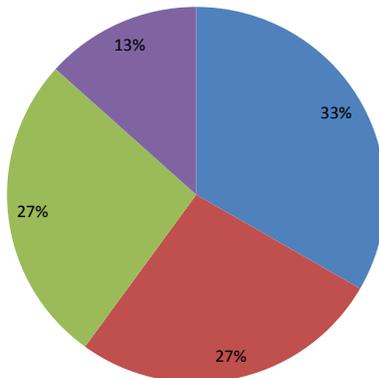


* 8050問題の認知度は高いがその中身についての理解は深まっていないと思われる。危機意識をもってもらう為にも周知に向けた取り組みが必要である。

Q36. 知っていたと答えた方にお聞きします。8050問題を身近なことと感じますか。

合計 17 ※Q35で「知っていた」を選択した方のみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	あまり感じない	5	33%
2	とても感じる	4	27%
3	少し感じる	4	27%
4	感じない	2	13%
5	無回答	2	



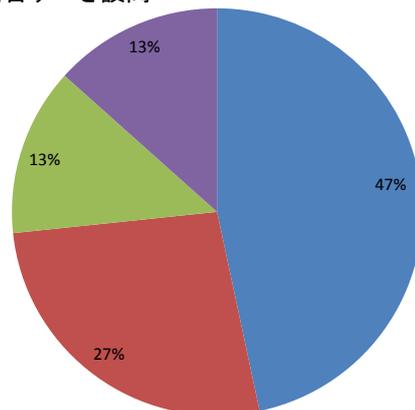
* 感じる、少し感じるが54%、感じない、あまり感じないで46%となっており、感じている人が若干多いだけの結果となっている。それはQ35と関連して問題の理解度も影響していると推測される。が他に、家庭が社会から孤立傾向にあるほど身近に感じるが、家庭内で助け合える関係があれば、そこまで身近なこととしては感じにくい様子もうかがえる。

Q37. 身近なこととして感じるとお答えした方は、理由を教えてください。(複数回答)

回答すべき人数 8
合計 15

※Q36で「とても感じる」、「少し感じる」を選択した方がみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	家族、親戚にいるから	7	47%
2	その他(自分たちがなると思うから 4人)	4	27%
3	友人、知人にいるから	2	13%
4	近所にいるから	2	13%
5	無回答	0	



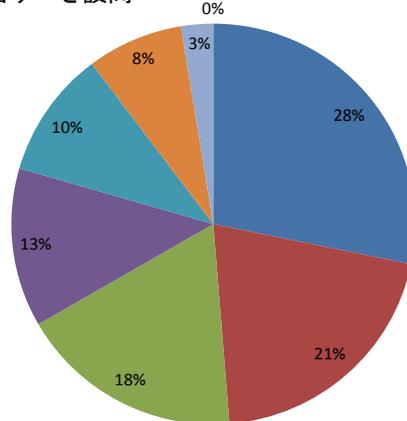
* 身内や友人に当事者がいるほど危機意識は高い。逆に周りに当事者が居なければ無関心とも取れることから、Q35・36とも関連して社会問題としての意識向上にむけた取り組みの重要性を感じる。

Q38. あなたは8050問題について、どんな不安や危機感を感じますか。(複数回答)

回答すべき人数 8
合計 39

※Q36で「とても感じる」、「少し感じる」を選択した方がみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	資金面(生活費等)	11	28%
2	介護	8	21%
3	親亡き後の生活	7	18%
4	孤独死	5	13%
5	頼れる人がいない	4	10%
6	働きたい気持ちはあるが雇ってもらえない	3	8%
7	特に感じない	1	3%
8	その他	0	0%
9	無回答	0	

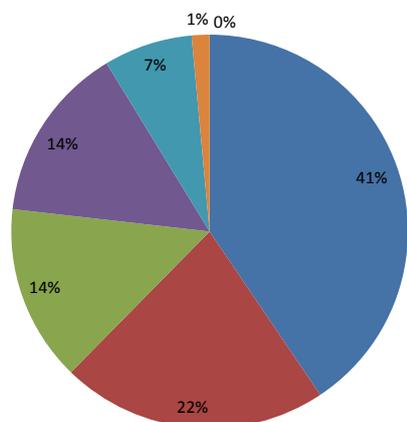


* 結果からも生活費の確保や介護費用と資金面での危機感が高い。ただ、Q7の回答結果で、当事者の多くは資金面において、現状、困り感を抱いていない傾向があるため、危機感を持っているのは親だと推測される。そのことから、当事者への理解を深める取り組み、支援がいかに重要か見えてくる。

Q39. 最後に、8050問題に関してあなたの素直な考えや気持ちに近いものを選んでください。(複数回答)

回答すべき人数 40
合計 70

No.	項目	回答数	割合
1	他人事ではない。社会問題だから各自治体で支援策を考えたほうがよい。	28	41%
2	核家族化、少子化、学歴社会の影響もあるとは思う。	15	22%
3	家族の問題だし甘えだと思ふ。家族や親類で解決したほうがよい。	10	14%
4	義務教育下で早期にキャリア教育(働くこと)やお金に関する教育があればよい。	10	14%
5	世間体を気にし過ぎて、支援を望まないと思ふ。	5	7%
6	特に感じない。	1	1%
7	その他	0	0%
8	無回答	1	



* 多くは社会問題と捉え公的機関での支援を求めているが、家族の問題と捉え公になることを拒む傾向もみられる。ひきこもりは、決して「甘えなどではない」事を支援を通して理解してもらふ必要性がある。また就労に向けたキャリア教育の必要性が多く求められてもいる。

「本人・家族」用アンケート結果の総括

回答した 397 世帯中、ひきこもり状態にある人がいると答えたのが 40 世帯（10%）あり Q 8 における回答結果からその人数は 39 人（無回答除く）となる。年齢に大きなバラツキは見られないが、20 歳前後、40 歳前後、60 歳以上で多くなる傾向がある。

若年時のひきこもりは進学や就職などの節目でもあり、その環境に適応できずにその状態になったと思われ、40 代前後の方々には中途退職や、病気、家庭環境の変化によりその状態になったと思われる。いずれにしても、精神的負担によりひきこもりに陥る傾向が強く、長期化する傾向もある。60 歳以上でのひきこもり状態にある人の場合、定年後の生活環境での変化（無趣味等）も影響している可能性もあるが、介護等を要する方も一定数いると思われ、親や高齢者のひきこもりも潜在的に多いと推測される。

ひきこもりの状態の人の多くは、自宅から殆ど出ない人と比べ、趣味や買い物の用事で外出できる人が多い。また、就労や悩みの共有への意識の高さから、自立したいとの思いも強く感じられる。職場体験等への積極的な声かけや臨床心理士を伴う訪問支援（アウトリーチ）の拡充など、心の負担軽減に繋がる取組により、自立への扉が開ける可能性は大きいと感じる。

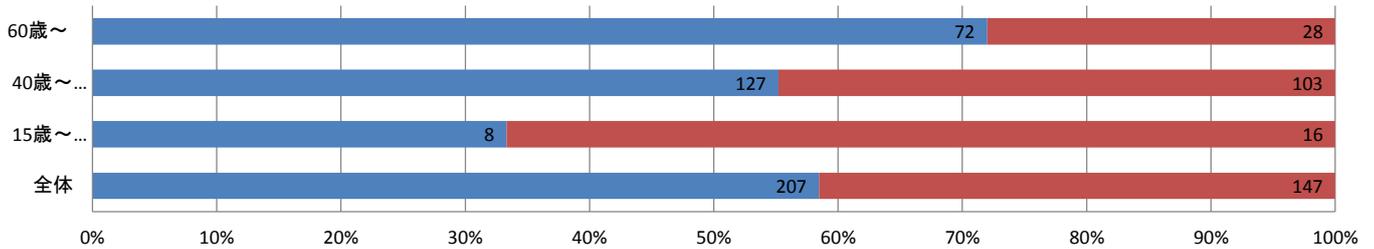
今後の不安要素としては、生活費の確保や介護費用と資金面での危機感が高い。ただ、Q 7 の回答結果で、当事者の多くは資金面において、現状、困り感を抱いていない傾向がある。それは 8050 問題への理解度も影響していると推測されるが他に、家庭が社会から孤立傾向にあるほどこの問題について身近に感じ、家庭内で助け合える関係があれば、そこまで身近なこととしては感じにくい様子も伺える。そのことから、当事者への理解を深める取り組み、支援がいかに重要か見えてくる。

石垣市民の生活等に関する調査

【それ以外の方】集計結果

Q41. あなたの性別をお答えください。

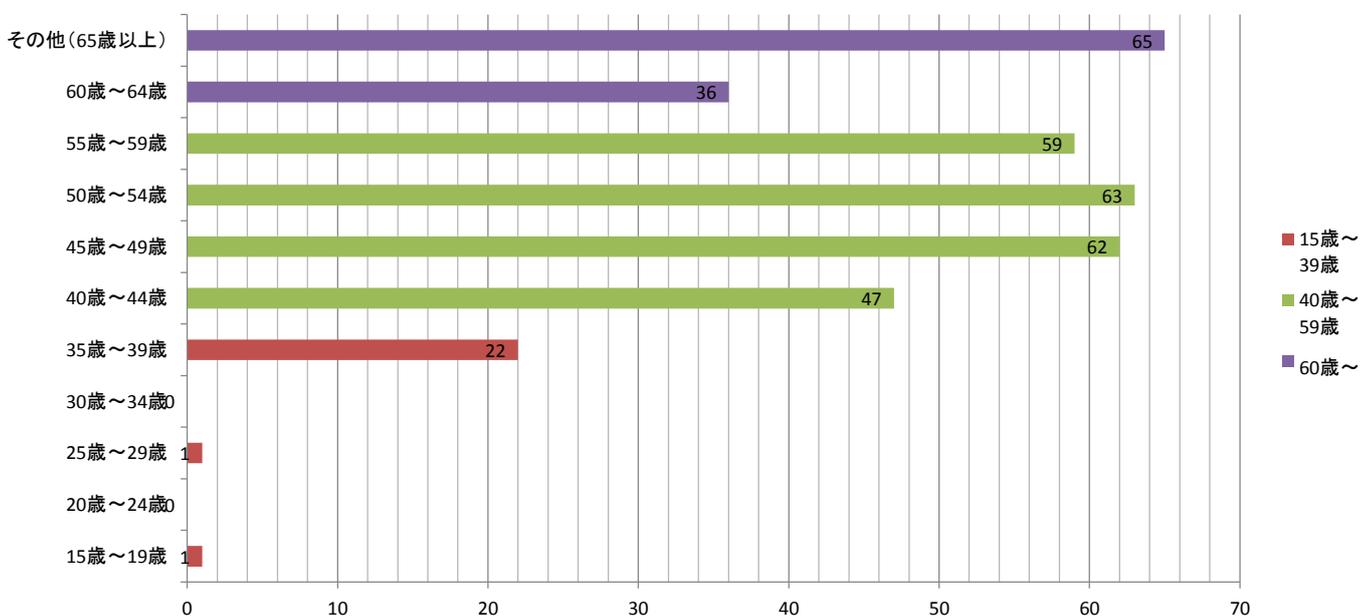
No.	項目	合計				割合
		全体	15歳～ 39歳	40歳～ 59歳	60歳～	
1	男性	207	8	127	72	58%
2	女性	147	16	103	28	42%
3	無回答	3	0	2	1	



* 357名から回答を頂いた。内訳は男性207名(58%)女性147名(42%)となっている。

Q42. あなたの年齢をお答えください。

No.	項目	合計				割合
		全体	15歳～ 39歳	40歳～ 59歳	60歳～	
1	15歳～19歳	1	1			0%
2	20歳～24歳	0	0			0%
3	25歳～29歳	1	1			0%
4	30歳～34歳	0	0			0%
5	35歳～39歳	22	22			6%
6	40歳～44歳	47		47		13%
7	45歳～49歳	62		62		17%
8	50歳～54歳	63		63		18%
9	55歳～59歳	59		59		17%
10	60歳～64歳	36			36	10%
11	その他(65歳以上)	65			65	18%
12	無回答	1	0	1	0	

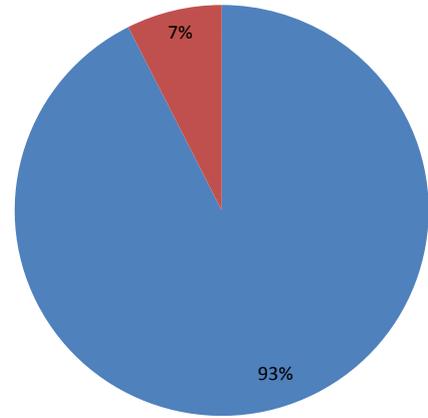


* アンケート対象年齢すべてから回答を得られた。特に8050問題に深く関わるとされる40歳から60歳までの割合が5割以上となっておりアンケート実施目的に合致する結果が得られると思われる。

Q43. あなたの身近に仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに自宅から出ない状態の方はいますか。

No.	項目	回答数	割合
		合計	357
1	いない	298	93%
2	いる	24	7%
3	無回答	35	

*「いない」が殆どを占めることは予想できた。その中で10%近い人は存在を確認しており、その人達の回答は地域全体での意識をはかる指標となり得る。

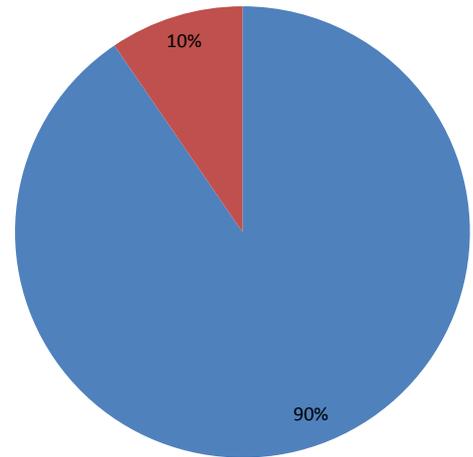


Q44. その方の性別をお答えください。

No.	項目	回答数	割合
		合計	24
1	男性	19	90%
2	女性	2	10%
3	無回答	3	

* Q43で「いる」と答えた人の9割が男性と回答している。女性に比べ男性は社会的構造からも表面化しやすいと推測される。

※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

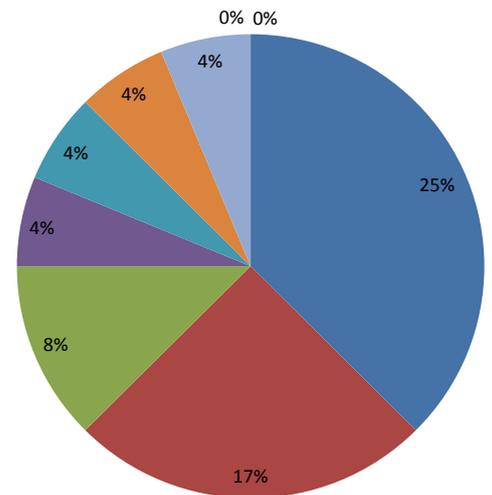


Q45. その方の年齢をお答えください。

No.	項目	回答数	割合
		合計	24
1	45歳～49歳	6	25%
2	55歳～59歳	4	17%
3	60歳～64歳	3	13%
4	20歳～24歳	2	8%
5	その他(66歳 1人)	1	4%
6	15歳～19歳	1	4%
7	30歳～34歳	1	4%
8	40歳～44歳	1	4%
9	50歳～54歳	1	4%
10	25歳～29歳	0	0%
11	35歳～39歳	0	0%
12	無回答	4	

* 40歳から59歳までで58%となっており、15歳から39歳までの20%より多い結果となっている。60歳前後でも高い率を示しているが、定年時とも重なることから、慎重に判断する必要がある。

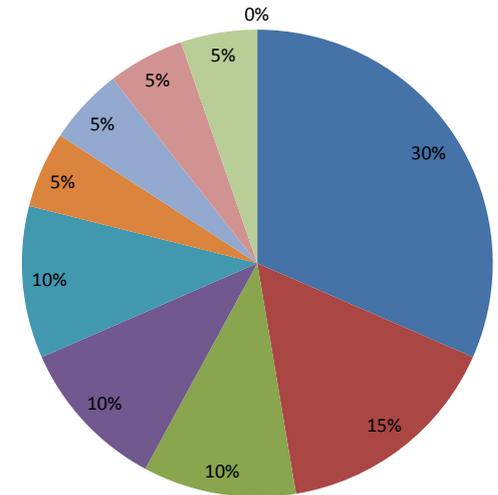
※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問



Q46. その方が現在の状態になったのは、その方が何歳の頃かわかりますか。

合計 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	40歳～44歳	6	30%
2	15歳～19歳	3	15%
3	25歳～29歳	2	10%
4	50歳～54歳	2	10%
5	60歳～64歳	2	10%
6	20歳～24歳	1	5%
7	30歳～34歳	1	5%
8	35歳～39歳	1	5%
9	55歳～59歳	1	5%
10	その他	1	5%
11	45歳～49歳	0	0%
12	無回答	4	

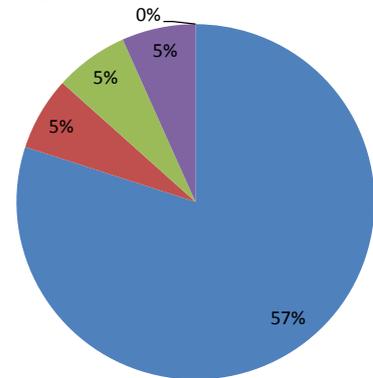


* 40歳から59歳までの率が45%とかなり高い。要因としては、仕事面において中間管理職としての責務上のストレス等により退職や疾病を抱えそのままひきこもりに陥ってしまった可能性がある。これまで以上に、その年代への精神負担の軽減を図れる取り組みを検討すべきと思われる。

Q47. その方が現在の状態となってどのくらい経ちますか。

合計 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	7年以上	12	57%
2	3年～5年	6	29%
3	6ヶ月未満	1	5%
4	1年～3年	1	5%
5	5年～7年	1	5%
6	6ヶ月～1年	0	0%
7	無回答	3	



* 7年以上が最も多い結果からも、ひきこもりが長期化していることが思慮される。

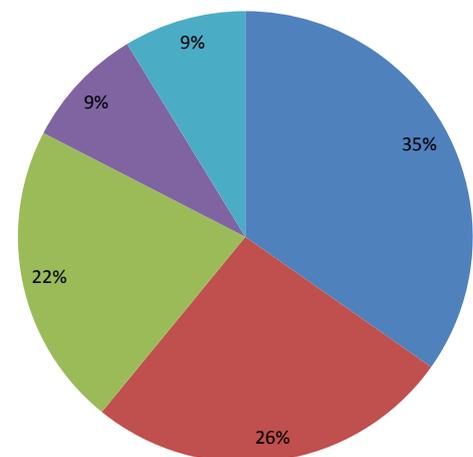
Q48. その方はこれまでに以下の病気やけがで通院や入院をしたことはありますか。

通院・入院した事のある病気をお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

合計 26

No.	項目	回答数	割合
1	わからない	8	35%
2	精神的な病気	6	26%
3	通院や病気をしたことがない	5	22%
4	目・耳の病気	2	9%
5	その他の病気(糖尿病1人、脳の病気1人)	2	9%
6	心臓や血管の病気	0	0%
7	肺の病気	0	0%
8	胃や腸の病気	0	0%
9	皮膚の病気	0	0%
10	骨折・大ケガ	0	0%
11	無回答	3	



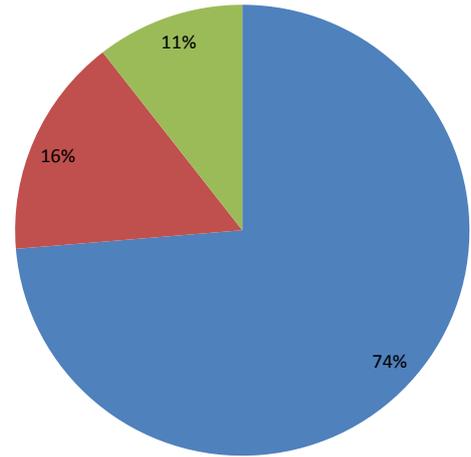
* 「わからない」と「通院や病気をしたことがない」で57%となるが、それは当事者が現状を知られたくないので隠しているのではないかと推測される。また、「精神的な病気」と捉えている人が26%で他の疾病の平均8%を大きく上回っている結果からひきこもり要因の疾病は精神病でそれ以外の疾患は要因では無いと多くの人が認識している現われだと推測される。

Q49. その方は現在学校に通っていますか。

合計 24

※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	卒業した	14	74%
2	中退した	3	16%
3	在学中	2	11%
4	休学中	0	0%
5	わからない	0	0%
6	無回答	5	

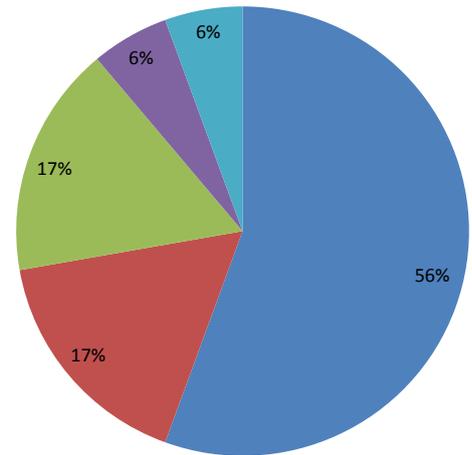


Q50. その方が最後に卒業(中退を含む)した、または現在在学している学校はどれですか。

合計 24

※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	高等学校	10	56%
2	四年制大学	3	17%
3	わからない	3	17%
4	中学校	1	6%
5	定時制高等学校	1	6%
6	専門学校	0	0%
7	高等専門学校・短期大学	0	0%
8	大学院	0	0%
9	通信制高等学校・大学	0	0%
10	無回答	6	



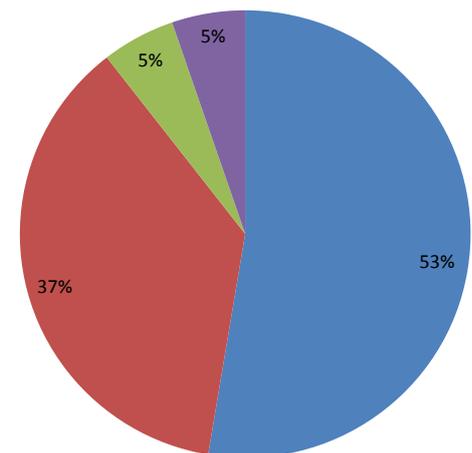
* Q49、50の結果から、就学状況やその結果(卒業や中退、在学中等)について認識している様子から、ひきこもりにある人に対し少なからず気にかけていると思慮される。

Q51. 現在その方は進学(復学を含む)または就職を希望していますか。

合計 24

※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	わからない	10	53%
2	どちらも希望していない	7	37%
3	就職希望	1	5%
4	その他(休職中1人)	1	5%
5	進学(復学)希望	0	0%
6	無回答	5	



* 「どちらも希望していない」「就職希望」「休職中」で47%の人が近況を把握している様子からも、Q50と同様、ひきこもりにある人に対し少なからず気にかけていることが伺える。

Q52. 現在その方は就職活動していますか。

回答すべき人数 1 ※Q43で「いる」を選択した方が回答すべき設問
 合計 1 ※尚且つQ51で「就職希望」を選択した方が回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	わからない	1	100%
2	している	0	0%
3	していない	0	0%
4	無回答	0	

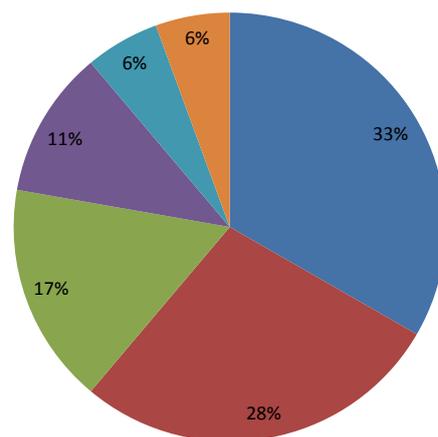
* 有効回答者1名のみでの回答なので参考としづらい。

Q53. その方は今まで働いたことがありますか。

回答すべき人数 18 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
 合計 18 ※尚且つQ51で「進学希望」「どちらも希望していない」「その他」「わからない」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	正社員として働いていた	6	33%
2	パート・アルバイトとして働いていた	5	28%
3	わからない	3	17%
4	その他(正社員で休職中1人)	2	11%
5	派遣社員として働いていた	1	6%
6	働いたことはない	1	6%
7	自営業を営んでいた	0	0%
8	契約社員として働いていた	0	0%
9	無回答	0	

* 正社員・パート・求職・派遣を合わせると78%あり、多くの人は就労経験があるとの結果となっている。

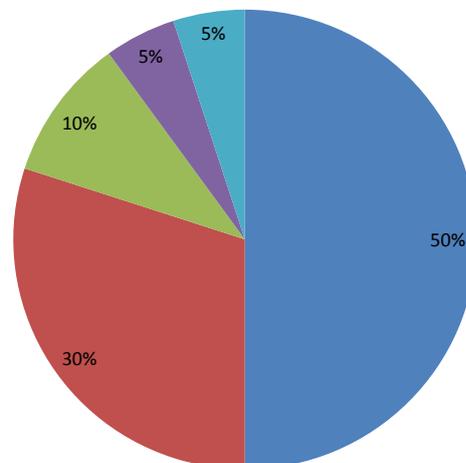


Q54. その方は普段どのくらい外出しますか。

合計 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	普段は家にいるが近所のコンビニなどには出かける	10	50%
2	普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	6	30%
3	わからない	2	10%
4	自室からほとんど出ない	1	5%
5	その他	1	5%
6	自室からは出るが、家からは出ない	0	0%
7	無回答	4	

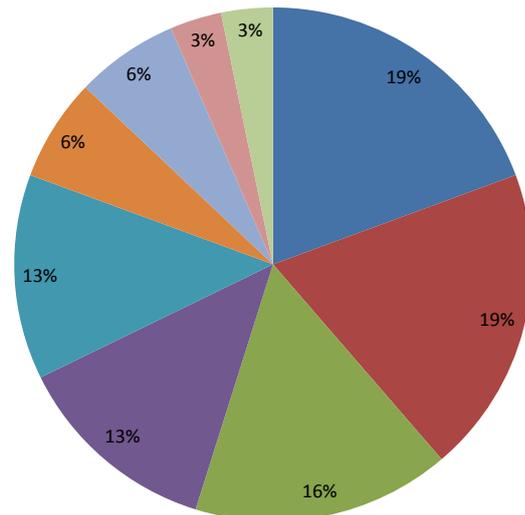
* 「本人・家族」(Q19)の回答率とほぼ同じ結果となっている。



Q55. その方が今の状態になったきっかけは何だと思いますか。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 34

No.	項目	回答数	割合
1	人間関係がうまくいかなかった	6	19%
2	わからない	6	19%
3	病気(うつ病、アルコール依存症、統合失調症、難聴、疲れやすい)	5	16%
4	職場になじめなかった	4	13%
5	その他(精神疾患、1人、親族1人、記載なし1人)	4	13%
6	不登校(小学校・中学校・高校)	2	6%
7	就職活動がうまくいかなかった	2	6%
8	大学・専門学校になじめなかった	1	3%
9	受験に失敗した(高校・大学)	1	3%
10	妊娠した	0	0%
11	無回答	3	



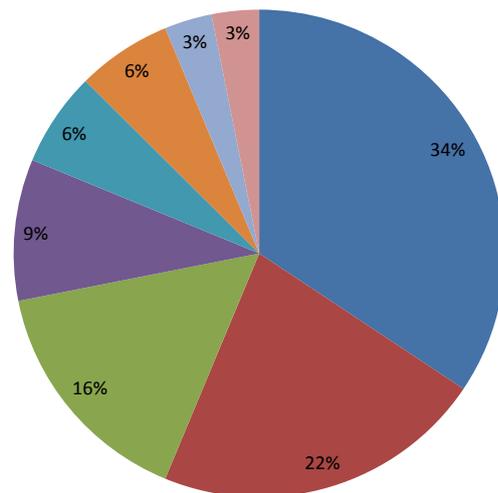
* 人間関係(職場になじめなかった含む)32%、病気(その他、精神疾患含む)は29%で、「本人・家族」(Q20)の回答とほぼ同じ内容が上位を占めており、人間関係構築にむけたつまづきが大きな要因であると思われる。

注: 人間関係や病気の捉え方に、Q20とこちらでは、少々異なる点はあるが、総合的に判断するとほぼ同様である。

Q56. その方は小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 37

No.	項目	回答数	割合
1	わからない	11	34%
2	親友がいた	7	22%
3	友達とよく話した	5	16%
4	友達にいじめられた	3	9%
5	不登校を経験した	2	6%
6	学校の先生との関係がうまくいかなかった	2	6%
7	友達というよりも一人で遊んでいる方が楽しかった	1	3%
8	我慢をすることが多かった	1	3%
9	友達をいじめた	0	0%
10	いじめを見て見ぬふりをした	0	0%
11	学校の勉強についていけなかった	0	0%
12	その他	0	0%
13	無回答	5	

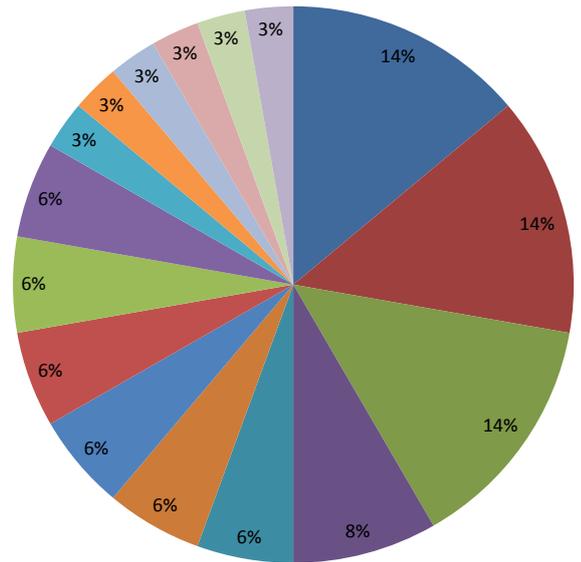


* Q43で居ると答えた人は、ひきこもり状態にある人の小中学生時の様子では、「親友がいた」や「友達とよく話した」「いじめられた」などと認識している。その上でひきこもりになった現状から、その要因として対人関係・信頼関係構築が不得手だと理解している様子がうかがえる。

Q57. その方は小学校や中学校の頃に、**家庭**で次のようなことを経験したことがありますか。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 42

項目	回答数	割合
1 親とは何でも話すことができた	5	14%
2 親と自分との関係がよくなかった	5	14%
3 我慢をすることが多かった	5	14%
4 あてはまるものはない	3	8%
5 親はしつけが厳しかった	2	6%
6 家族に相談しても、あまり役に立たなかった	2	6%
7 両親の関係がよくなかった	2	6%
8 引っ越しや転校をした	2	6%
9 両親が離婚した	2	6%
10 その他(ごく普通1人)	2	6%
11 困ったときは、親が親身に助言をしてくれた	1	3%
12 何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった	1	3%
13 将来の職業など親に決められた	1	3%
14 小さい頃から習い事やスポーツ活動に参加していた	1	3%
15 大きな病気をした	1	3%
16 親が過保護(過干渉)であった	1	3%
17 親は学校の成績を重視していた	0	0%
18 親と死別した	0	0%
19 親から虐待をうけた	0	0%
20 経済的に苦しい生活を送った	0	0%
21 無回答	6	

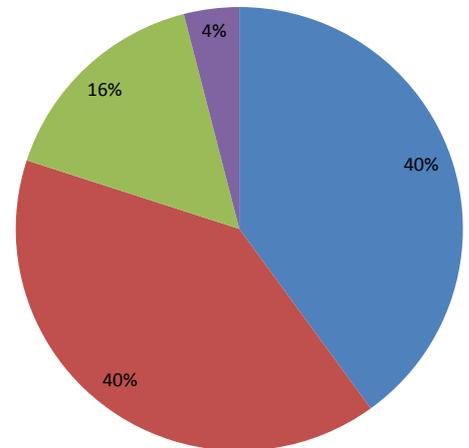


*「本人・家族」Q22の回答と比べると、最多は共に「親とは何でも話すことができた」だが、ここで2番目に多い「親と自分との関係がよくなかった」「我慢することが多かった」(共に14%)が「本人・家族」では「我慢することが多かった」10%で3番「親と自分との関係がよくなかった」は2%で9番目となっている。「本人・家族」で2番目に多かった「困ったときは、親が親身に助言をくれた」はここでは11番目(3%)となっている。この違いから、家庭環境は想像できても、親子関係や当事者の思いを把握することは困難である状況がうかがえる。

Q58. その方が以下に挙げられた通信手段の中で、普段利用しているものすべてをお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 25

No.	項目	回答数	割合
1 携帯電話(スマートフォン)	10	40%	
2 わからない	10	40%	
3 固定電話	4	16%	
4 パソコン	1	4%	
5 ファックス	0	0%	
6 その他	0	0%	
7 無回答	0		

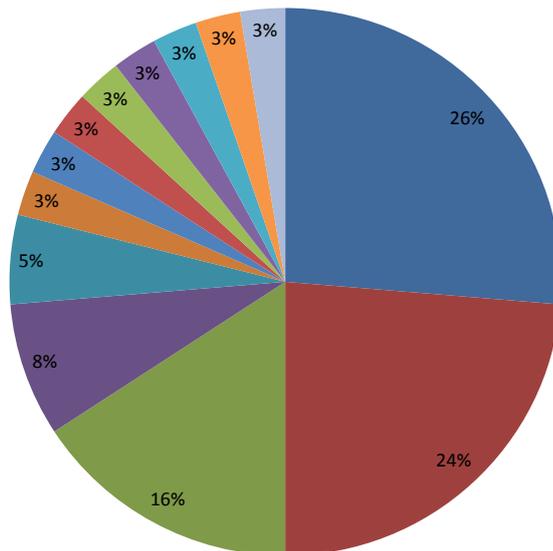


*「わからない」を除くと、携帯電話、固定電話、パソコンの順位は「本人・家族」Q23と同じ結果となっており、双方の通信手段として活用されている結果と見られる。

Q59. その方が普段ご自宅にいる時よくしていることすべてをお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 41

No.	項目	回答数	割合
1	テレビを見る	10	26%
2	わからない	9	24%
3	インターネット	6	16%
4	ゲームをする	3	8%
5	LINE(ライン)	2	5%
6	ラジオを聴く	1	3%
7	本を読む	1	3%
8	勉強をする	1	3%
9	家事・育児をする	1	3%
10	電子掲示板の閲覧・書き込み	1	3%
11	SNS(インスタグラム、フェイスブック、ツイッター等)	1	3%
12	チャットまたはメッセージ	1	3%
13	オンライン・ゲーム	1	3%
14	新聞を読む	0	0%
15	電子メール	0	0%
16	ウェブサイトまたはウェブブログ	0	0%
17	その他	0	0%
18	無回答	3	

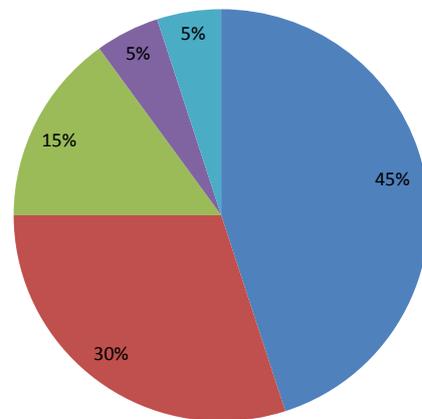


*「わからない」9名の他、テレビ、インターネット等に関しては憶測での回答も多く含まれているように推測される。

Q60. その方は支援を受けていますか。(複数回答)

回答すべき人数 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 25

No.	項目	回答数	割合
1	支援を受けていない	9	45%
2	わからない	6	30%
3	医療機関等の支援を受けている(通院しているなど)	3	15%
4	生活保護等の福祉サービスを受けている	1	5%
5	NPO等の支援を受けている(NPOが主催するイベント等に参加している)	1	5%
6	行政機関等の支援を受けている(保健所や市役所へ相談しているなど)	0	0%
7	その他	0	0%
8	無回答	5	

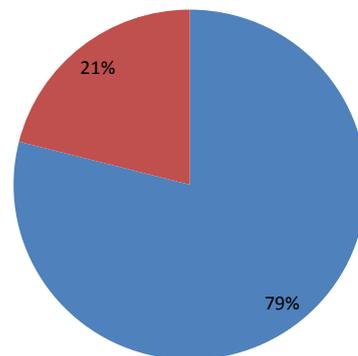


*「支援を受けていない」9名(45%)に対し、「医療機関」や「NPO等」の支援を受けている割合が計6名(25%)しかない。特に行政機関等の支援については0%との現状からは支援時の秘匿性も要因として有るかと思われるが、潜在的なひきこもり当事者自身の隠したいという感情によることも多いと思われる。支援対象者の掘り起こしや支援内容の告知方法等について検討すべき課題であると思われる。

Q61. その方は関係機関に相談したことがありますか。

合計 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	ない(わからない)	15	79%
2	ある	4	21%
3	無回答	5	

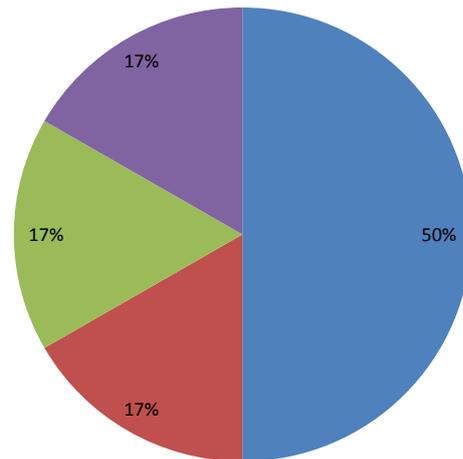


*「ある」4名(21%)、「本人・家族」Q26で40名中「ある」は16名(43%)と過半数を下回っている。相談しやすい環境の構築が必要である。

Q62. その方はどのような関係機関に相談しましたか。相談したことのある機関をお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 4 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 7 尚且つQ61で「ある」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	病院・診療所	3	50%
2	市町村役場	1	17%
3	保健所・保健センター	1	17%
4	民間施設	1	17%
5	適応指導教室	0	0%
6	教育相談所・相談室などの相談機関	0	0%
7	児童相談所・福祉事務所などの児童福祉機関	0	0%
8	職業安定所(ハローワーク)	0	0%
9	精神保健福祉センター	0	0%
10	ジョブカフェ地域若者サポートステーションなどの就労支援機関	0	0%
11	発達障害者支援センター	0	0%
12	上記以外の心理相談・カウンセリングを行う民間の機関	0	0%
13	その他の施設・機関	0	0%
14	わからない	0	0%
15	無回答	1	

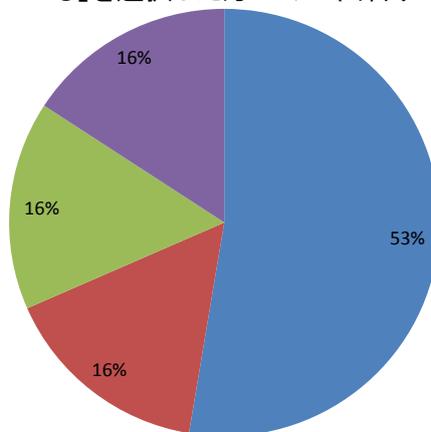


* 有効回答者が4名しかいないため参考にしづらい結果となっている。

Q63. あなたは、その方の現在の状態について、関係機関に相談したいと思いますか。

合計 24 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	思わない	10	53%
2	非常に思う	3	16%
3	思う	3	16%
4	少し思う	3	16%
5	無回答	5	

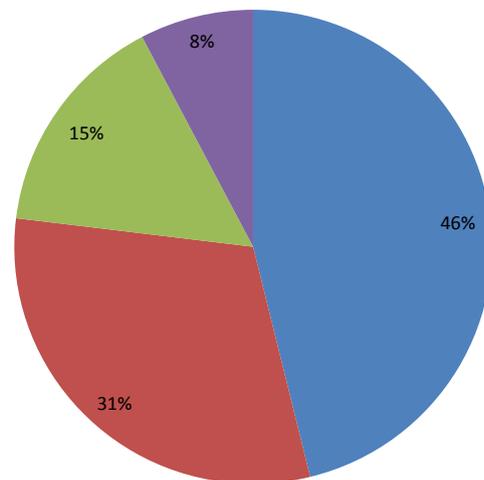


* 「非常に思う」から「少し思う」までの合計が9名、「思わない」が10名とほぼ半々である。

Q64. 相談したくないと思う理由はなんですか。(複数回答)

回答すべき人数 10 ※Q43で「いる」を選択した方がのみが回答すべき設問
合計 13 ※尚且Q63で「思わない」を選択した方がのみが回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	行っても解決できないと思う	6	46%
2	その他	4	31%
3	自分(その方)のことを知られたくない	2	15%
4	相手にうまく話せないと思う	1	8%
5	何か聞かれるか不安に思う	0	0%
6	相談に行ったことを人に知られたくない	0	0%
7	相談機関が自宅から遠い	0	0%
8	お金がかかると思う	0	0%
9	無回答	0	



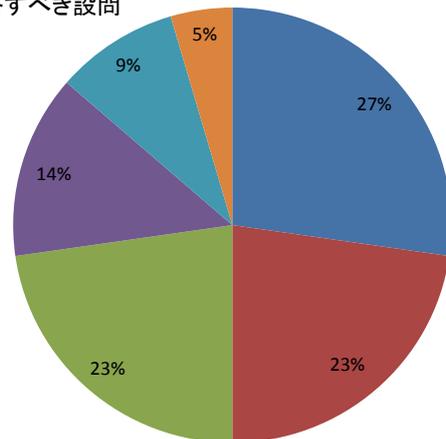
* 「その他」(31%)との回答には他人の事なので干渉したくないという気持ちも含まれると思うが、「行っても解決できない」(46%)や「自分(その方)のことを知られたくない」(15%)も合わせると(92%)となり、支援機関への期待度は薄いと思われる。成功例等を広く周知するなど、現状打開に努める必要性を感じる。

Q65. どのような場所なら、相談したいと思いますか。(複数回答)

回答すべき人数 9 ※Q43で1を選択した方が回答すべき設問
 合計 25 ※尚且Q63で「非常に思う」「思う」「少し思う」を選択した方が回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	同じ悩みを持つ人が集まる場所(ピアサポート)	6	27%
2	精神科医がいる病院	5	23%
3	臨床心理士が常駐している相談機関	5	23%
4	サポートステーション(就労に向けたスキルアップなど)	3	14%
5	その他	2	9%
6	保健所	1	5%
7	子ども・若者相談窓口	0	0%
8	無回答	3	

*全体としては、臨床心理士や精神科医等の専門機関が多いが、「同じ悩みを持つ人が集う場所」や「サポートステーション」は、「本人・家族」のQ32でも高い要求がある。職場体験や居場所作りの推進が双方から求められている結果となっている。

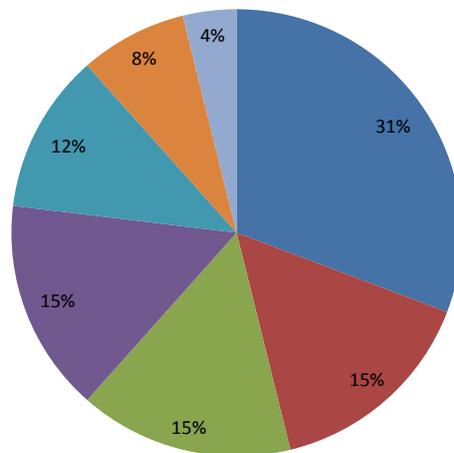


Q66. 相談場所に求める条件は何ですか。(複数回答)

回答すべき人数 9 ※Q43で1を選択した方が回答すべき設問
 合計 28 ※尚且Q63で「非常に思う」「思う」「少し思う」を選択した方が回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	親身に聴いてくれる	8	31%
2	匿名で相談できる	4	15%
3	無料で相談できる	4	15%
4	出張相談をしてくれる	4	15%
5	LINE等を使って相談をしてくれる	3	12%
6	ネットで相談できる	2	8%
7	その他(自立へのサポート)	1	4%
8	無回答	2	

*ここでも「本人・家族」Q33と同様の結果となっている。

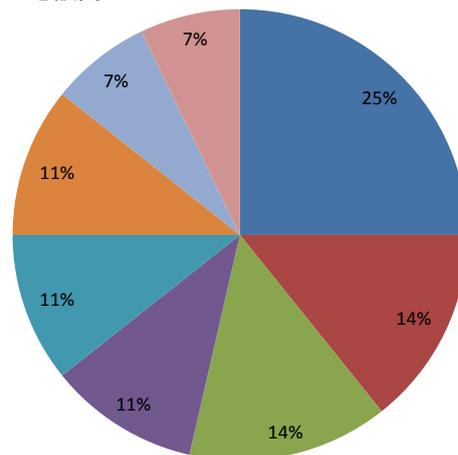


Q67. その方を支援するために本市に必要なと思う機関をお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 9 ※Q43で1を選択した方が回答すべき設問
 合計 28 ※尚且Q63で「非常に思う」「思う」「少し思う」を選択した方が回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	精神保健福祉センター(心の病について相談、支援を行うなど)	7	25%
2	自立支援学校(共同生活をしながら自立に向けた生活訓練など)	4	14%
3	支援者家族が集う会	4	14%
4	職業訓練校(専門的職種の資格取得など)	3	11%
5	発達障害者支援センター、療育センター	3	11%
6	フリースクール	3	11%
7	自立支援センター(ホームレスとなるおそれのある方を一時的に保護し、社会復帰に向けた支援)	2	7%
8	その他	2	7%
9	無回答	0	

*心の病について相談支援のできる場所が最多だが、自立に向け直接的な支援のできる施設や当事者を抱える家族が悩みや不安を共に語り合える居場所作りも要求が高い。

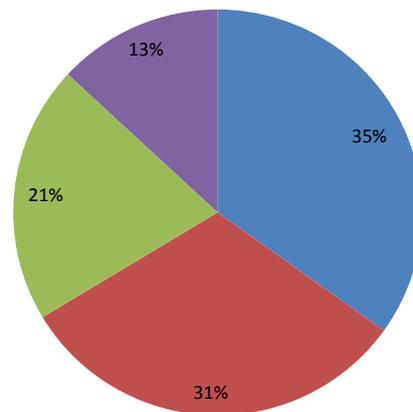


Q68. 次にあげられたことについて、あなた自身にあてはまる気持ちをお答えください。

① 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちが分かる。

合計 357

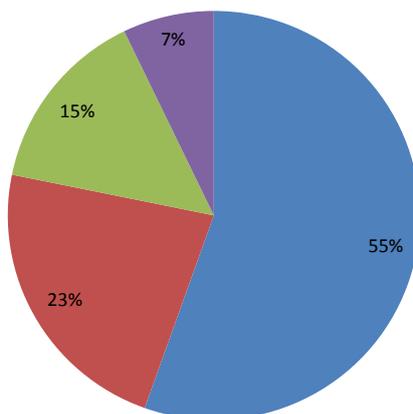
No.	項目	回答数	割合
1	どちらかといえばはい	112	35%
2	どちらかといえばいいえ	101	31%
3	いいえ	66	21%
4	はい	42	13%
5	無回答	36	



② 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある。

合計 357

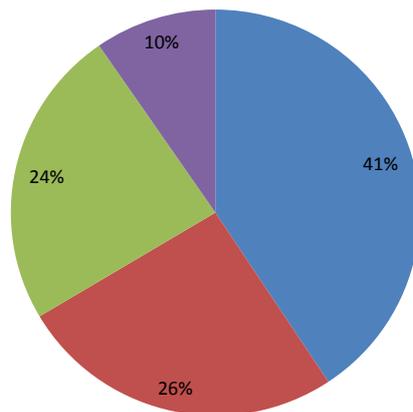
No.	項目	回答数	割合
1	いいえ	178	55%
2	どちらかといえばいいえ	73	23%
3	どちらかといえばはい	47	15%
4	はい	23	7%
5	無回答	36	



③ 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる。

合計 357

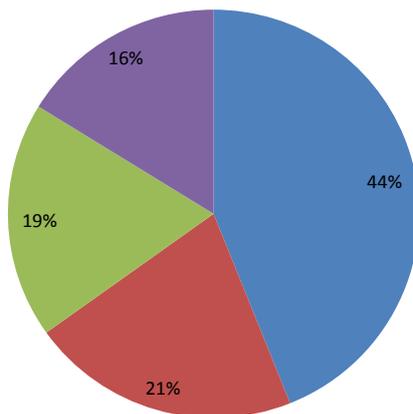
No.	項目	回答数	割合
1	いいえ	131	41%
2	どちらかといえばはい	83	26%
3	どちらかといえばいいえ	77	24%
4	はい	31	10%
5	無回答	35	



④ 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う。

合計 357

No.	項目	回答数	割合
1	どちらかといえばはい	141	44%
2	どちらかといえばいいえ	68	21%
3	はい	60	19%
4	いいえ	52	16%
5	無回答	36	

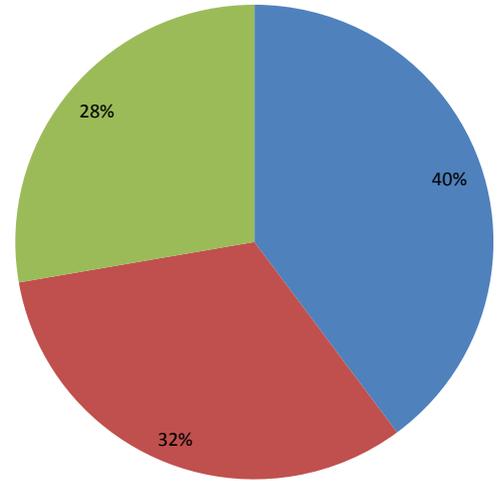


* ①の「ひきこもりの方の気持ちが分かるか」については肯定、否定ほぼ同数、②の「自身もひきこもりたいか」については、2割は肯定、7割以上が否定している。③の「嫌な出来事があった場合」については、肯定3割、否定6割以上となっており、④の「理由があればひきこもるか」では6割が肯定し、4割近くが否定している結果となっている。結果から、自身は直ぐにひきこもりに陥ることはないが、その状態に陥ってしまった人への理解は示していると思われる。

Q69. あなたは「8050問題」について知っていましたか。

No.	項目	回答数	割合
		合計	357
1	知っていた	135	40%
2	聞いたことはあるが詳しくは知らなかった	110	32%
3	知らなかった	94	28%
4	無回答	18	

*「本人・家族」に比べると認知度は低く、内容の理解も深まっていないと思われる。



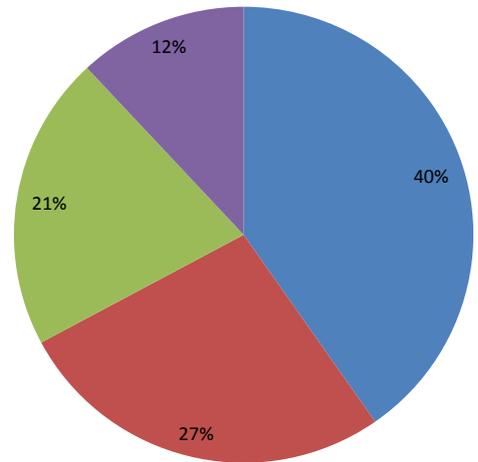
Q70. 知っていたと答えた方にお聞きします。8050問題を身近なことと感じますか。

回答すべき人数 135
合計 135

※Q69で「知っていた」を選択した方が回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	少し感じる	54	40%
2	あまり感じない	36	27%
3	とても感じる	28	21%
4	感じない	16	12%
5	無回答	1	

*「本人・家族」と比べると、社会全体の問題として意識している人は多い。



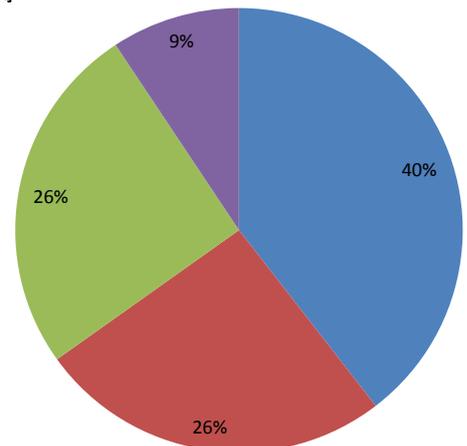
Q71. 身近なこととして感じるとお答えした方は、その理由をお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 82
合計 168

※Q70で「とても感じる」「少し感じる」を選択した方が回答すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	その他(社会問題になっているから等)	34	40%
2	家族、親戚にいるから	22	26%
3	友人、知人にいるから	22	26%
4	近所にいるから	8	9%
5	無回答	82	

*回答から、近所や友人親戚と身内に居ることよりも社会全体の問題として捉えているように思える。

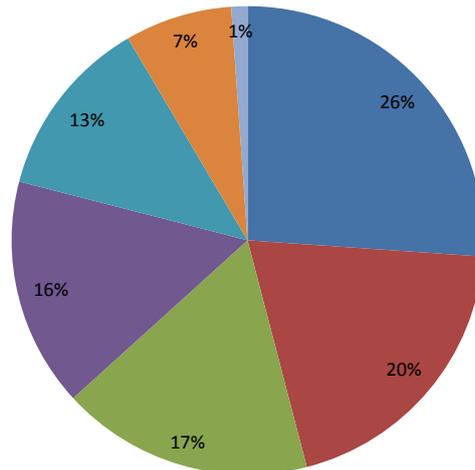


Q.72. あなたは8050問題について、どんな不安や危機感を感じますか。(複数回答)

回答すべき人数 82 ※Q70で「とても感じる」「少し感じる」を選択した方がのみが回答
 合計 273 すべき設問

No.	項目	回答数	割合
1	資金面(生活費等)	71	26%
2	親亡き後の生活	54	20%
3	介護	47	17%
4	孤独死	43	16%
5	頼れる人がいない	34	13%
6	働きたい気持ちはあるが雇ってもらえない	20	7%
7	その他	3	1%
8	特に感じない	0	0%
9	無回答	1	

* 生活費の確保や介護費用と資金面での危機感が高い。その中で「頼れる人がいない」や「働きたい気持ちはあるが雇ってもらえない」などは、社会から孤立することによる将来への不安の表れともうかがえる。

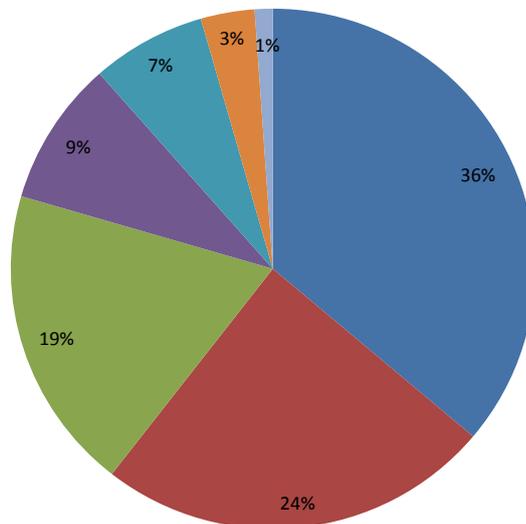


Q.73. 最後に、8050問題に関してあなたの素直な考えや気持ちに近いものをお答えください。(複数回答)

回答すべき人数 357
 合計 738

No.	項目	回答数	割合
1	他人事ではない。社会問題だから各自治体で支援策を考えたほうがよい。	261	36%
2	核家族化、少子化、学歴社会の影響もあると思う。	176	24%
3	義務教育下で早期にキャリア教育(働くこと)やお金に関する教育があればよい。	137	19%
4	世間体を気にし過ぎて、支援を望まないと思う。	65	9%
5	家族の問題だし甘えだと思ふ。家族や親類で解決したほうがよい。	51	7%
6	その他	24	3%
7	特に感じない。	8	1%
8	無回答	16	

* 社会問題と捉え公的機関での支援の必要性が最も多く求められている結果は「本人・家族」の場合と同様だが、家族の問題と捉えている人が51名(7%)に過ぎず、これは「本人・家族」(40名中10名で14%)よりも少ない結果となっている。このことを「本人・家族」に理解してもらえれば、当事者の掘り起こしに大いに貢献できると感じる。



「それ以外の方」用アンケート結果の総括

同居外の他人の意見として、身近にひきこもり状態の人が居ると認知している人は357人中24人(6.7%)いて、内9割が男性と回答している。女性に比べ、男性は社会的構造からも表面化しやすいと推測される。認知している人の多くが、就学、就職状況について認識している様子から、ひきこもりの人に対し「少なからず気にかけている」と思慮される。

ひきこもりになってしまった要因として、対人関係構築に必要とされるコミュニケーションが不得手だと認識され、人間関係構築に向けた「つまずき」が大きな要因であると認識されている。

ひきこもり状態にある当事者やその家族は、そのことをあまり知られたくないとの思いから支援を求めない傾向にあるが、それ以外の多くの人はその状態に陥ってしまったことに対し理解を示している。そのことを当事者に知ってもらえれば、より相談しやすい環境の構築に結びつくと思われる。ただ現状、公的機関での支援の必要性は認めるものの期待度は低い傾向がある。

公的機関は、ひきこもりの人は元より社会全体へも成功例等を広く周知するなど、現状打開に努めることが重要である。

8050 問題に関しての認知度は本人・家族に比べ内容、理解共に低く自身のこととして捉えづらいようである。

8050 問題での不安や危機感に関しては、資金面での不安を訴えるひとがやはり圧倒的に多いが、「働きたいが雇ってもらえない」や「頼れる人がいない」など社会からの孤立に、不安や危機感を感じている人も多い。そのためにも、就労支援体制の強化や、地域社会との絆を構築できるような取り組みも必要だと思われる。